

学校運営

運営報告	9
教務委員会	9
学生委員会	17
学寮委員会	19
専攻科	22
人文科学部門	26
自然科学部門	28
機械工学科	30
電気情報工学科	32
電子制御工学科	34
建設システム工学科	36
図書館	39
情報科学センター	41
教育研究支援センター	43
地域共同テクノセンター	45
社会基盤メンテナンス教育センター (iMeC)	48
国際交流センター	50
生命倫理委員会	52
情報セキュリティ推進委員会	53
評価委員会	54
広報委員会	55
進路指導委員会	56
学生相談室	58
修学支援室	60
入試広報部会	61
留学生委員会	64
教育改善委員会	66
ホームページ部会	67
FD・ICT部会	69
交通対策検討委員会	71
安全衛生委員会	72
緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ	73
男女共同参画室	76
入学前ICT教育ワーキンググループ	78
施設マネジメント委員会	80
いじめ対策委員会	81
教学IR室	82

舞鶴高専ジュニアドクター育成塾	83
K O S E N型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築	85
学科・部門別教員一覧	86
教職員数	99
学校行事日程	100

教 務 委 員 会

教務主事 加登 文学

1. 教務委員会の構成と役割分担

主 事	加登	C	総括	
副主事	内海	E	委員長代行，入試関係，専攻科との連携， 実験スキル計測の実施（質保証）	専攻科長
主事補	室巻	M	出欠確認システム，成績評価資料の保管， 到達度評価，教学 IR 室との連携， HP 部会との連携， ポートフォリオ教育の実施（質保証）， 分野横断的能力の育成の実施（質保証）	HP 部会長， 3M 担任
	丹下	E	入試広報部会との連携	入試広報部会長
	石川	S	学年暦，試験時間割， PROG テストの実施， 分野横断的能力の育成の実施（質保証）	専攻科 MS コース長
	徳永	C	海外研修旅行，インターンシップ， FD・ICT 部会との連携， 実験スキル計測の実施（質保証）	教育改善委員長， FD・ICT 部会長
	牧野	人文	修学支援，再試験， ピアサポーター育成の実施（質保証）， 学生情報の集約および共有の実施（質保証）	修学支援室長，2-2 担任
	奥村	自然	学生カルテ，Web シラバス・MCC，CBT， 評価委員会との連携， 学生情報の集約および共有の実施（質保証）	評価委員長，2-1 担任
委 員	篠原	M	M 科取りまとめ・調整	M 科学科長
	竹澤	E	E 科取りまとめ・調整	E 科学科長，4E 担任
	伊藤	S	S 科取りまとめ・調整	S 科学科長
	尾上	C	C 科取りまとめ・調整	C 科学科長
	藤田	人文	人文科学部門取りまとめ・調整， 学力不振者対策， 英語教育，国際交流，留学生支援	人文科学部門長， 1 年学年主任， 国際交流センター長
	上杉	自然	自然科学部門取りまとめ・調整， 学生カルテ，学力不振者対策	自然科学部門長， 2 年学年主任
	下元	事務		学生課長
	富田	事務		学生課課長補佐
	大和	事務		教務係長

M：機械工学科，E：電気情報工学科，S：電子制御工学科，C：建設システム工学科，
人文：人文科学部門，自然：自然科学部門

2. 新型コロナウイルス感染症の対応について

2.1 授業時間

令和5年度も前期中は感染症対策のため，学寮食堂では交代制としていた。そのための昼食時間の確保や通学生のバスの運行時間などを考慮して，前期中は85分授業を継続した。後期からは学寮での対策が緩和されたため，従来の90分授業が再開できた。

2.2 感染症による出席停止の扱いについて

学校保健安全法施行規則の改正（令和5年5月8日施行）により、新型コロナウイルス感染症は第2種の感染症（インフルエンザと同等）に追加され、出席停止の期間は「発症した後五日を経過し、かつ、症状が軽快した後一日を経過するまで」となった。医師の証明書（出席停止が妥当と判断される期間の証明）により、出席停止期間は公欠として扱い、ワクチン接種に伴う欠席については、公欠とはしないこととした。

3. 令和5年度の主な取り組み

3.1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定

令和5年8月25日に「舞鶴工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」が文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）に認定された。令和4年度以降に準学士課程第1学年に入学するすべての学生が対象となり、必要な単位を修得することで、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムの修了認定が行われる。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）のロゴマーク

3.2 ジェネリックスキル測定テスト「PROG」の実施

PROGとは河合塾とリアセックが共同開発したジェネリックスキルの成長を支援するプログラムであり、いくつかの高専ですでに導入されている。「リテラシー」と「コンピテンシー」の2つの観点から学生の能力を測定し（7段階で判定）、自分自身の強みや弱みを客観的に把握することができるという特徴がある。本校では令和3年度に試行し、令和4年度より本格的に導入されている。本年度は表1に示す要領で実施された。

表1 PROGの実施スケジュール

対象	テスト実施日	結果解説会実施日
4年生	令和5年5月2日（火）	令和5年6月5日（月）
2年生	令和5年4月17日（月） 令和5年4月24日（月）	令和5年5月15日（月）
教員	—	令和5年9月15日（金） （FD・ICT部会と共催）

3.3 英語デー

令和5年10月17日（火）に英語デーとして、TOEICの受験を行った。本科3,4年生および専攻科1年生の全員と5年生および専攻科2年生の希望者に対してTOEIC IPが実施され、294名の受験があった。また、本科1,2年生対象のTOEIC Bridgeは42名の受験があった。

3.4 改訂版MCCとの対応

令和5年4月に高専機構より改訂版MCCが示された。これに対して、改訂版MCCの趣旨や到達水準などについて認識を深めるとともに、舞鶴高専の現行カリキュラムとの対応について確認作業を行った。確認の結果、本校では科目の大幅な変更は行わず、各科目の学習内容を一部変更するなど、改訂版MCCに沿った内容とすることで対応することとした。令和6年度入学生から改訂版MCCに対応したカリキュラムが適用されることとなる。

3.5 質保証（目標5年間の最終）

令和5年度は高専機構の第4期中期計画（令和元年度～令和5年度）の最終年度であり、目標としている質保証6項目の達成目標の年度であった。舞鶴高専として取り組んだ主な内容を以下に示す。

- ① ポートフォリオ教育の実施：令和5年4月20日（木）に1年生を対象とした学修ポートフォリオ説明会を実施し、定期試験後の特活の時間に、「リフレクションシート（振り返りシート）」の記入を行い、SharePoint上の各自のフォルダに保存した。
- ② 実験スキル計測の実施：すべての学年で「実験スキル評価シート」の作成が完了し、設定された実験スキルを計測している。計測結果は評価資料サーバーに保存している。
- ③ 分野横断的能力の育成の実施：3.2で説明したように、本科2年生と4年生がジェネリックスキル測定テスト「PROG」を受験した。受験後、各学生や教員は、結果解説会を受講し、現状分析と今後の課題を把握した。
- ④ データ（CBTなど）に裏付けされた教育改善の実施：数学（1～3年生全クラス）、物理（2年生全クラス）、化学（1年生全クラス）、および電気情報工学科3・4年生で専門（電気回路（3E）、プログラミング（4E））のCBT（Computer Based Testing）を実施した。また、実施結果を分析してフィードバックしている。
- ⑤ ピアサポーター育成の実施：令和5年度、本科1・2年生を対象とした放課後教室を実施し、専攻科生5名をTAとして3回配置した。また、学寮では各フロアの指導寮生を中心にピアサポートを実践している。
- ⑥ 学生情報の集約および共有の実施：学生カルテの作成および成績等の学生情報の共有を行っている。令和5年度からは学生カルテの共有をSharePointで行っている。

3.6 研修旅行

令和5年度の研修旅行は10月3日（火）～6日（金）の期間に実施した。各学科の主な行き先を表2にまとめる。

表2 4年生研修旅行

学科	主な行き先
機械工学科	沖縄電力、首里城、琉球大学、北谷浄水場・海水淡水化センター、MRO Japan、アメリカンビレッジ、新糸満造船所など
電気情報工学科	チームラボ、チームラボプラネッツ TOKYO、浅草、東京電力、ディズニーランド、赤レンガ倉庫・みなとみらいなど
電子制御工学科	ディズニーランド、牛久大仏、筑波大学、サイエンススクエアつくば、サイバーダイン、デンソー本社ギャラリー、名古屋工業大学、CKD(株)など
建設システム工学科	東京都現代美術館、明治神宮、TOTO ギャラリー、ディズニーランド、防災科学技術研究所、MIYASHITA PARK、東京大学、赤坂迎賓館など

3.7 スタートアップ人材育成プロジェクト講義

令和4年度大学改革推進等補助金（高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業）の一環として、3年生を対象に全5回の講習および1回の講演会を実施した。内容を表3に示す。

表3 スタートアップ人材育成プロジェクト講義と講演会

回	日時	内容
講義1	令和5年6月26日	イントロダクション 特命教授 内海 康雄 氏
講義2	令和5年7月10日	ホンダ講座 ホンダ次世代エンジニア育成支援チーム 山田 誠 氏ら
講義3	令和5年10月2日	「起業のおおよその手順」 特命教授 内海 康雄 氏
講義4	令和5年10月23日	知的財産についての講義 日本弁理士会関西会 中村 忠則 氏
講義5	令和5年11月6日	「舞鶴市の現状と課題」 舞鶴市役所 企画政策課 「KDDIの地域共創の取り組み」 KDDI株式会社 野田 昌弘 氏
講演会	令和6年1月15日	「起業しないと知らなかったこと」 吉崎 亮介 氏

3.8 地域連携・地域貢献活動の単位認定制度について

学生が地域社会での活動を通じて社会貢献を行い、実践的な経験を得る機会を提供し、その成果を評価して学業との連携を促進することを目的に「地域連携・地域貢献活動の履修等に関する規程」を定めた。本規程は令和6年度入学生から適用される。

4. 本科入学試験

4.1 本科入学選抜

令和6年度本科入学選抜より、特別推薦の割合をこれまでの60%から70%に変更した。令和6年度本科入学選抜は以下の日程で行われた。

- ・特別選抜（地域創生型）：令和5年12月23日（土）、本校会場のみ
- ・特別選抜（一般推薦型）：令和6年1月6日（土）、本校会場のみ
- ・一般学力検査選抜：令和6年2月11日（日）、本校会場、京都会場（京都大学 吉田キャンパス）、大阪（大阪教育大学 天王寺キャンパス）

4.2 本科編入学選抜

令和6年度本科編入学選抜を令和5年8月23日（水）に実施した。機械工学科に2名の受験があり合格者は0名であった。

5. 教務関係の学事日程

令和5年度の教務関係の学事日程を表4にまとめる。

表4 令和5年度の教務関係の学事日程

令和5年4月4日（火）	始業式など
令和5年4月5日（水）	前期授業開始
令和5年5月29日（月）	特別授業（補講日）
令和5年5月30日（火）～6月5日（月）	前期中間試験：5日間
令和5年7月18日（火）	月曜日の授業
令和5年7月26日（水）	特別授業（補講日）
令和5年7月27日（木）～8月2日（水）	前期期末試験：5日間
令和5年8月3日（木）	予備日
令和5年8月4日（金）～9月17日（日）	夏季休業
令和5年8月5日（土）・6（日）	オープンキャンパス
令和5年9月3日（日）	
令和5年8月23日（水）	編入学試験
令和5年9月15日（金）	PROG 報告会
令和5年9月18日（月・敬老の日）	特別授業（補講日）
令和5年9月18日（月）～9月20日（水）	前期到達度確認（テスト返却期間）
令和5年9月21日（木）	後期授業開始
令和5年10月3日（火）～10月6日（金）	研修旅行
令和5年10月17日（火）	英語デー
令和5年11月20日（月）～11月27日（月）	中間試験
令和5年12月15日（金）午後	キャリアセミナー準備 16～17日 キャリアセミナー
令和5年12月22日（金）	午前に金曜日午後の授業
令和5年12月23日（土）	特別選抜入試（地域創生型）
令和5年12月25日（月）～令和6年1月5日（金）	冬季休業
令和6年1月6日（土）	特別選抜入試（一般推薦型）
令和6年1月9日（火）	月曜日授業
令和6年1月10日（水）	金曜日授業
令和6年2月1日（木）	特別授業
令和6年2月2日（金）～2月8日（木）	期末試験
令和6年2月11日（日）	学力検査選抜
令和6年2月13日（火）	臨時休業

令和6年2月14日(水)～16日(金)	特別授業／試験返却等到達度確認
令和6年3月15日(金)	卒業証書・修了証書授与式

6. 教務委員会での協議事項

今年度は会議資料をすべて電子化し、ペーパーレス会議とした。主な協議事項を以下にまとめる。

表5 教務委員会での協議事項(抜粋)

第1回 令和5年3月30日(木)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 今年度の役割分担 (2) 今年度の検討課題 (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の申請について (4) 「舞鶴工業高等専門学校学生の懲戒に関する規程」「舞鶴工業高等専門学校学生の懲戒に関する申合せ」の制定について (5) 編入学試験について (6) 三つの方針の修正について (7) 研修旅行について
第2回 令和5年4月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の表彰について (2) 科目再履修免除の対象科目について
第3回 令和5年5月16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の表彰について (2) 再履修免除について (3) 日本語の単位について (4) 感染症による出席停止について (5) 定期試験期間中の公欠について (6) 令和6年度概算要求(什器)について (7) CBT 作問について (8) MCC 改訂版への対応について (9) 高専間単位互換について (10) 地域貢献活動の単位化について
第4回 令和5年6月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 非常勤講師の任用について (2) 編入学試験合格判定基準について (3) 追選考制度の募集要項への文言修正について (4) 公欠について
第5回 令和5年6月20日(火)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業におけるPC使用について (2) 非常勤講師の任用について
第6回 令和5年7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度本科学生募集要項(案)について (2) 令和7年度入試以降の編入学試験の学力検査について (3) MCC改訂版と現行カリキュラムの対応チェックについて (4) 次年度高専間提供科目について (5) 遠隔授業の方針(案)について (6) 留学に伴う休学について (7) 学生の公欠について
第7回(メール審議) 令和5年7月24日(月)～ 27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の公欠について(明石高専グローバルキャンプ参加)

第8回（メール審議） 令和5年8月7日（月）～ 14日（月）	(1) 非常勤講師の任用について（電気情報工学科）
第9回（メール審議） 令和5年8月28日（月）～ 31日（木）	(1) 令和5年度後期授業時間帯の変更について
第10回 令和5年9月15日（金）	(1) 学生の問題行動について (2) 地域活動の単位認定について (3) 遠隔授業の方針（運用ルール）について (4) 高専間提供科目受講希望者（本校学生）について (5) 高専間提供科目受講希望者（他高専学生）について (6) 入学前 ICT 教育 WG (7) 入試問題の作問チェックについて (8) 授業変更届について
第11回（メール審議） 令和5年9月29日（金）～ 10月6日（金）	(1) 非常勤講師の任用について（機械工学科）
第12回 令和5年10月25日（水）	(1) 舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の第3条第13項ただし書き適用について (2) 遠隔授業について (3) 学生の公欠について (4) 地域活動の単位認定について (5) 次年度の学年暦について (6) 非常勤講師任用のルールについて (7) 特別教育研究費（高専高度化推進経費）の追加募集について (8) 欠席届（第11号様式）について
第13回（メール審議） 令和5年10月30日（月） ～11月1日（水）	(1) 次年度の学年暦について
第14回 令和5年11月17日（金）	(1) 遠隔授業の方針について（遠隔授業実施時の「出席」の取り扱いについて） (2) 非常勤講師の任用について（人文科学部門） (3) 「総合演習」の廃止について (4) 地域活動の単位認定について (5) 建設システム工学科卒業論文の教務係提出に関して (6) 定期試験、再試験の評価資料の保管について (7) 学生の表彰について (8) 学則の一部改正案について (9) 高専間提供科目受講希望者（本校学生）について (10) 休学者の復学のタイミングについて (11) 次年度学年暦(案)について
第15回（メール審議） 令和5年11月27日（月） ～12月1日（金）	(1) 舞鶴工業高等専門学校地域連携・地域貢献活動の履修等に関する規程の制定について (2) 学則の一部改正について

	<ul style="list-style-type: none"> (3) 舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規程の一部改正について (4) 舞鶴工業高等専門学校における遠隔授業に関する申合せについて
第16回 令和5年12月1日(金)	(1) 教室の変更について
第17回(メール審議) 令和5年12月4日(月)～ 12月8日(金)	(1) The 高専 SEMICON Japan2023 での展示発表における公欠許可願について
第18回 令和5年12月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> (1) インターンシップの単位認定 について (2) 卒業論文の提出方法(電子化)について (3) 専門 AL について (4) 再試験結果通知書, 追試験結果通知書および定期試験問題受付票の様式変更について (5) 欠席届(感染症の場合)の様式変更について (6) 学生の表彰について (7) 特別活動実施記録について (8) MCCの対応について (9) Web シラバスの入力について (10) 次年度の体操服について (11) 地域連携・地域貢献活動の履修等に関する規程について
第19回(メール審議) 令和5年12月15日(金) ～12月19日(火)	(1) 「廃炉創造ロボコン」出場に伴う公欠認定依頼 について
第20回 令和6年1月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の第3条第13項のただし書き適用について (2) 再試験結果通知書, 追試験結果通知書の様式変更 について (3) 4年生対象学修単位科目(物理Ⅲ・化学Ⅲ)の開設期の変更と4年生対象選択科目(後期)の開講について (4) 令和6年度の到達度確認について (5) 後期期末試験の到達度確認期間時間割について
第21回 令和6年1月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の第3条第13項のただし書き適用について (2) 舞鶴工業高等専門学校 地域連携・地域貢献活動の履修等に関する規程の制定について (3) インターンシップについて (4) 非常勤講師の任用について (5) インターンシップ単位再認定申請について (6) 学年暦の変更について
第22回(メール審議) 令和6年1月25日(木)～ 1月30日(火)	(1) 舞鶴工業高等専門学校学生の懲戒に関する規程(案), 舞鶴工業高等専門学校学生の懲戒に関する申合せ(案)の修正について

第 23 回 令和 6 年 2 月 2 日 (金)	(1) 学生の不正行為 について
第 24 回 令和 6 年 2 月 19 日 (月)	(1) 舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の第 3 条第 13 項のただし書き適用について (2) 知識・技能審査に係る単位認定について (3) 国立高等専門学校単位互換にかかる履修生の単位認定について (4) 非常勤講師（自然科学部門）の任用について (5) 卒業論文提出遅滞理由書（機械工学科）について (6) 専門 AL について (7) 卒業証書授与式における答辞者について (8) 入学式における宣誓者について (9) 後援会予算について
第 25 回 令和 6 年 2 月 26 日 (月)	(1) 卒業認定に関することについて (2) 進級判定について
第 26 回（メール審議） 令和 6 年 3 月 4 日 (月)～3 月 6 日 (水)	(1) 学生の表彰について
第 27 回 令和 6 年 3 月 14 日 (木)	(1) 舞鶴工業高等専門学校学則別表の一部改正について (2) 舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の一部改正について (3) 舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の内規の一部改正について (4) 舞鶴工業高等専門学校における国立高等専門学校間単位互換に関する規程の一部改正について (5) 舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規程の一部改正について (6) 舞鶴工業高等専門学校における転科に関する内規の一部改正について について (7) 舞鶴工業高等専門学校における学生の通称名等使用の取扱いについての制定について (8) 定期試験を実施しない科目について (9) 令和 6 年度高専間単位互換科目の選定について

学 寮 委 員 会

寮務主事 児玉 圭司

1. 学寮委員会の構成と役割分担

役割	担当者	担当業務
主事	児玉	
副主事	野間	写真撮影, 挨拶指導, 駐輪場・鍵確認, 学寮食堂監視(不正飲食の防止)ほか。
寮生会執行部会 (企画)	*木村 森	寮生会執行部会・企画委員会に対応。 イベント, オープンキャンパス実施。
寮生会(生活)	*高木 馬越	寮生会生活委員会に対応(給食検討委員会を除く)。 ペットボトル潰し, 洗濯場・風呂場の管理。
寮生会(生活) 給食検討	*荻田 小林	寮生会生活委員会業務の一部。 給食検討委員会, 栄養講座(1年生対象)。
寮生会(文化)	*井上 荻田	寮生会文化報道委員会に対応。 「鶴友」発行, 学寮HPコンテンツの維持管理。
寮生会(車輛)	*毛利 中尾	寮生会車輛委員会に対応。 車輛許可申請の受付, 無許可車輛・駐車違反の取締り, 自転車の整理等。
寮生会(防災) 寮室点検 巡回指導	*豊田 大内 小島	寮生会防災委員会に対応。 防災・防犯に関する企画。避難訓練の実施。寮室点検の 実施。各種巡回指導。
指導寮生会 +点呼	*山根 仲川, 野間	指導寮生会の活動を担当。点呼方法の確立。 指導寮生会の会合出席など。
宿日直割当	*高木	年2回の宿日直割当を実施。
修学支援	*木村	修学支援室の業務に参画し, 学寮の窓口となる。
交換寮生	—	(R5年度は実施せず)
女子寮	*荻田 今村	女子寮運営の支援。

*はチーフ責任者。

2. 学寮に関する主なスケジュール

- 4月2日(日) 新入生入寮・入寮式
- 4月2日(日)～14日(金) 教員による全棟巡回・生活・自習指導
- 4月3日(月) 新入生対象外泊・欠食システム説明会
- 4月4日(火) 駐輪場清掃
- 4月5日(水)～7日(金) 挨拶指導
- 4月中 フロアミーティング
- 5月8日(月) 車輛持ち込み開始
- 5月9日(火) 第1回ペットボトル潰し
- 5月15日(月) 1年生部屋替え
- 6月1日(木), 2日(金), 5日(月) 挨拶指導
- 6月14日(水), 16日(金) 第1回寮室点検
- 6月18日(日) 新入生歓迎会
- 6月19日(月) 栄養講座(1年生対象)
- 6月22日(木) 第1回給食検討委員会
- 6月27日(火) 第2回ペットボトル潰し
- 7月7日(金) セタイイベント
- 7月19日(水), 27日(木)～2日(水) 挨拶指導, マスク着用確認

- 8月2日（水） 第3回ペットボトル潰し
- 8月3日（木），4日（金） 閉寮
- 9月16日（土），17日（日） 開寮・1年生部屋替え
- 10月11日（水），13日（金） 第2回寮室点検
- 10月18日（水） 第4回ペットボトル潰し
- 11月6日（月）～9日（木） 挨拶指導，マスク着用確認
- 11月20日（月）～22日（水），24日（金），27日（月） 挨拶指導，マスク着用確認
- 12月4日（月） 寮生総会
- 12月9日（土） 寮生会クリスマスイベント
- 12月13日（水） 第2回給食検討委員会
- 12月13日（水），15日（金），20日（水），22日（金） 学寮食堂監視（不正飲食の防止）
- 12月11日（月）～14日（木） 入寮希望者説明会
- 12月13日（水），15日（金） 第3回寮室点検
- 12月20日（水） 第5回ペットボトル潰し
- 12月23日（土） 閉寮
- 1月8日（月・祝） 開寮
- 1月11日（木） 新春力餅大会
- 2月8日（木） 入寮選考結果発表
- 2月14日（水） 学寮食堂スペシャルメニュー提供
- 2月15日（木） 第6回ペットボトル潰し
- 2月16日（金）～18日（日） 閉寮

3. 令和5年度当初の寮生数

本科	機械		電気情報		電子制御		建設システム		合計	男女別
1年	38	33	38	29	38	35	34	20	148	117
		5		9		3		14		31
2年	37	29	28	18	36	32	40	23	141	102
		8		10		4		17		39
3年	28	26	30	26	32	31	27	21	117	104
		2		4		1		6		13
4年	17	16	22	17	27	26	24	13	90	72
		1		5		1		11		18
5年	14	10	15	12	16	13	17	9	62	44
		4		3		3		8		18
学科計	134	114	133	102	149	137	142	86	558	439
		20		31		12		56		119

4. 新型コロナウイルス感染症等の対策について

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

今年度は，新型コロナウイルス感染症対策を緩和した。主だった内容は以下のとおり。

- ・発熱者・濃厚接触者の隔離用に，7号館1階のうち16室のほか，各フロア1室以上の空き部屋を確保した。
- ・寮内公共スペースでのマスク着用義務をなくし，各自の任意とした(5/15～)。
- ・自室以外の寮室への立ち入りを解禁した(5/15～)。
- ・原則として濃厚接触者の隔離を不要とした(5/15～)。
- ・入浴のグループ分けと時間指定をなくした(4/1～)。
- ・食事のグループ分けと時間指定をなくした(9/16～)。

- ・学寮食堂を対面座席とした(9/16～)。
- 一方で(3)のとおり対応レベルの引き上げがあった。

(2) 臨時閉寮・帰省要請

令和5年度は全寮生や特定の学年の寮生に対する臨時閉寮・帰省要請の実施はなかった。

(3) 感染拡大期の状況および対応

- ・7月19日(水)から8月2日(水)まで、新型コロナウイルス感染症対策の対応レベルが3に引き上げられた。(37.5℃以上の発熱または新型コロナへの感染が疑われる症状がある場合の帰省、寮内公共スペースでのマスク着用および自室以外の寮室の訪問禁止等)
- ・インフルエンザの感染拡大があり、11月7日(火)から寮内公共スペースでのマスク着用および自室以外の寮室の訪問禁止とした。

5. 施設・環境整備

- ・5号館の改修を行った。
- ・5号館(西)1階洗濯室に洗濯機、電気衣類乾燥機のほか、新たにガス衣類乾燥機を導入した。

《長期休業期間中の環境整備》

- ・共用部ワックス清掃
- ・共用部ワックス剥離清掃(2, 3, 7号館)
- ・害虫駆除清掃(燻煙・噴霧)
- ・寮室クリーニング, 防カビ塗装
- ・エアコンクリーニング(1, 2, 3, 6号館)
- ・3号館玄関靴箱の更新

6. その他の主な動き

(1) 学寮HPでの情報発信

- ・学寮のホームページ(URL:<https://www.maizuru-ct.ac.jp/campuslife/dormitory/>)にて随時情報を発信した。

(2) 学寮諸経費の値上げについて

- ・光熱費の高騰に伴い、令和4年10月から学寮諸経費の月額を1,200円値上げしたが、令和5年度は光熱費に余剰が生じたため、1名あたり9,000円の返金を行うこととした。

(3) 食堂運業者の変更について

- ・4月1日(土)から学寮食堂の運業者が株式会社魚国総本社となった。

(4) 学寮施設の臨時利用

- ・課外活動の夏合宿・春合宿を学寮で受け入れた。
- ・タイのキングモンクット工科大学の学生1名を学寮で受け入れた。(6/11~7/8)

(5) 津山高専との交換寮生について

- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策、および学寮5号棟改修などの事情から、今年度も実施しなかった。

(6) 近畿地区寮務主事会議の開催について

令和5年11月27日(月)、近畿地区国立4高専の寮務主事が集まり、本校にて近畿地区寮務主事会議が開催された。

本会議では、国際寮の活用実績、休暇時の荷物の持ち帰り、入寮選考時の学業成績、学寮食堂の改修対応、学寮宿日直体制等について意見交換が行われた。

専 攻 科

専攻科長 内海 淳志

1. 年間活動の概要

専攻科の年間活動の概要を表1に示す。

表1 活動内容

年 月	内 容
令和5年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科総合システム工学専攻入学式 (4/3) ・新入生オリエンテーション (4/4) ・第1回専攻科委員会 (4/7) ・学位申請説明会：1年生 (4/11) ・1年生，2年生研究室配属決定 ・専攻科学生のTA募集
令和5年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科推薦特別選抜書類選考 (5/10) ・第2回専攻科委員会 (5/11) ・第3回専攻科委員会 (入試委員会と合同) (5/11) ・大学改革支援・学位授与機構への特例適用専攻科状況報告
令和5年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・特例適用による学位申請説明会：2年生 (6/1) ・第4回専攻科委員会 (入試委員会と合同) (6/12) ・専攻科一般学力検査選抜試験 (前期) (6/18) ・第5回専攻科委員会 (入試委員会と合同) (6/20)
令和5年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回専攻科委員会 (7/5) ・前期期末試験 (7/27～8/2) ・特例適用による学位申請説明会 (事務手続き)：2年生 (7/28)
令和5年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回専攻科委員会 (8/7) ・第3ブロック専攻科長会議 [オンライン] (8/25)
令和5年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学修総まとめ科目「履修計画書」の確認 ・特例適用による学位申請入力 ・学則変更および特例適用専攻科変更の届出 ・第8回専攻科委員会 (9/27) ・第9回専攻科委員会 (9/29)
令和5年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学修総まとめ科目「履修計画書」提出 (2年生) ・専攻科一般学力検査選抜試験 (後期) (10/15) ・特別研究基礎中間発表 (10/19) ・第10回専攻科委員会 (入試委員会と合同) (10/17) ・第11回専攻科委員会 (10/23) ・コース長による学生面談 (1年生)
令和5年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回専攻科委員会 (11/20)
令和5年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・合同学校説明会での専攻科説明 (12/2) ・第13回専攻科委員会 (12/18) ・特別研究発表会 (12/19) ・近畿地区高専専攻科長会議 [オンライン] (12/22)
令和6年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別研究基礎発表会 (1/23) ・学修総まとめ科目「成果の要旨」の確認

令和6年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別研究論文および特別研究報告集原稿の提出 (2/1) ・第14回専攻科委員会 (2/6) ・第15回専攻科委員会 (2/14) ・第16回専攻科委員会 (2/27) ・専攻科1年生後期期末試験 (2/2~2/8) ・特例適用による学位申請入力 ・第3ブロック専攻科研究フォーラム (2/28)
令和6年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第17回専攻科委員会 (3/5) ・専攻科修了証書授与式：総合システム工学専攻 18名 (3/15) ・令和7年度専攻科学生募集要項配布

2. 専攻科の運営

2.1 専攻科委員会の構成と役割分担

専攻科の活動は専攻科委員会が担い、委員長、教務主事の他、学科・部門から各1名程度の教員および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和5年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表2のとおりである。

表2 専攻科の運営メンバー

氏名	役職	主たる役割分担	備考
内海 淳志	委員長	総括	専攻科長
加登 文学	委員	教務関係事項への助言	教務主事
七森 公碩	電気電子システム工学コース長	当該コースの運営, 進路指導, 教育関係書類の整備, 特別研究審査資料等の確認	電気情報工学科
石川 一平	機械制御システム工学コース長		電子制御工学科
徳永 泰伸	建設工学コース長		建設システム工学科
村上信太郎	委員	教育関係書類の整備, 特別研究審査資料等の確認	機械工学科
藤田 憲司	委員	国際交流 人文科学部門との連携	人文科学部門
喜友名朝也	委員	自然科学部門との連携	自然科学部門
下元 利之	委員	事務手続きの承認	学生課長
富田 誠	委員		学生課課長補佐
嵯峨 信子	陪席	事務手続きの実施	学生課職員
中道 晶子	陪席		

2.2 入学と修了

令和5年度入学者は、総合システム工学専攻 15名（電気電子システム工学コース 6名、機械制御システム工学コース 4名、建設工学コース 5名）であった。また、令和5年度修了者は、総合システム工学専攻 18名（電気電子システム工学コース 8名、機械制御システム工学コース 4名、建設工学コース 6名）であった。

2.3 入試関係

推薦特別選抜を5月に実施した。一般学力検査選抜は前期日程A方式、B方式を6月、後期日程を10月に実施した。社会人特別選抜は応募者が無かった。選抜の結果、入学予定者は16名となった。

一般学力検査選抜について、令和7年度専攻科入試（実施は令和6年）より、6月頃に実施している前期日程と、10月頃に実施している後期日程を統合し、一般学力検査選抜 [A方式], [B方式] として年1回（6月頃）の実施とする。また、令和8年度専攻科入試（実施は令和7年）より、一般学力検査選抜の学力試験（専門科目）を筆頭試験から口頭試問に変更して実施する。これらの予告文書は本校ホームページに掲載されている。

2.4 特例適用専攻科変更の届出

特例適用専攻科について科目表および学修総まとめ科目担当者変更の届出を9月に行った。

2.5 学位授与申請

1年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を受講登録締切日前の4月11日（1年生対象）に行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。

2年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を6月1日に行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。また、7月28日に「特例適用による学位申請説明会（事務手続き）」を実施した。9月に「学修総まとめ科目履修計画書」の確認作業を行い、10月に特例適用による学位申請の手続きを行った。また、2月に当該学生に対する履修単位の確認と「学修総まとめ科目成果の要旨」の確認作業を行い、学位申請の手続きを行った。そして、特例適用による学位申請に対する大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、令和6年3月、申請者全員に「学士」の学位が授与された。なお、通例（従来の学位申請方式）適用による学位の申請はなかった。

3. 学生教育関係

3.1 研究成果の発表

専攻科では、学生が自身の研究成果を積極的に学会等で発表することを奨励している。これは、研究発表技術を涵養するためだけではなく、学外での客観的な評価を受けることによって、研究に関する新たな発見や今後の方向性に繋げるためでもある。発表件数の内訳を表3に示す（本人発表のみ）。

表3 学外での研究発表件数（第3ブロック専攻科研究フォーラムを除く）

所属コース名		発表件数		
		1年生	2年生	合計
電気電子システム工学	国内学会等	2	8	10
	国際会議等	0	3	3
機械制御システム工学	国内学会等	0	1	1
	国際会議等	0	0	0
建設工学	国内学会等	2	5	7
	国際会議等	0	0	0
合計		4	17	21

3.2 研究成果の発表

第3ブロック専攻科研究フォーラムが令和6年2月28日に、対面での実施にて開催された。本校からの発表件数の内訳を表4に示す。オーラルセッションおよびポスターセッションが行われ、ポスターセッションにおいて3件の優秀賞を受賞した。

表4 第3ブロック専攻科研究フォーラムでの研究発表件数（専攻科1年生）

所属コース名	発表件数		
	オーラルセッション	ポスターセッション	合計
電気電子システム工学	0	3	3
機械制御システム工学	1	1	2
建設工学	0	3	3
合計	1	7	8

3.3 インターンシップ

専攻科1年生複数名が国内の企業や大学院のインターンシップに参加した。長期のインターンシップ受入企業が減少していることを考慮して、今年度は2機関での実施日数が合計で10日以上となれば2単位の認定とした。また、KMITL（タイ王国キングモンクット工科大学）で行う海外インターンシップに専攻科1年生1名が参加した。令和5年8月に約3週間にわたり、現地にて国際交流および研究活動を

行った。現地での活動および学内での報告会は、すべて英語で実施した。

4. 進路状況

令和5年度の進路状況を表5に示す。

表5 進路状況（令和6年3月）

電気電子システム工学コース	機械制御システム工学コース	建設工学コース
【就職】 Supership (株) ローム (株) (株) SCREEN SPE テック 【進学】 大阪公立大学大学院 神戸大学大学院 筑波大学大学院 名古屋工業大学大学院	【就職】 旭化成 (株) (株) 小松製作所 【進学】 豊橋技術科学大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学	【就職】 (株) 奥村組 (株) 鴻池組 (株) 竹中工務店 タカラスタANDARD (株) 大阪府警 国土交通省近畿地方整備局

5. その他

5.1 第3ブロック専攻科長会議

令和5年度は福井高専を担当校として、8月25日にハイブリッド会議で開催された。協議事項では、「専攻科入学者確保」、「科研費採択率の向上のための取り組み」、「生成AIの活用に関する教育の実践」について議論され、情報共有がなされた。また、承合事項では、「入試関係（定員充足状況、Web出願、入試日程、実施方法など）」、「授業関係（出席時数、英語教育など）」、「社会人入学者の受け入れ」等について各校の状況が説明された。

5.2 近畿地区高専専攻科長会議

令和5年度は大阪公立大高専が主幹校であり、12月22日にWeb会議で開催された。協議事項はなく、承合事項についてのみ取り扱った。「入学試験関係」、「学校評価・認証関係」、「学位授与関係」、「学生指導・専攻科運営」等について各校の状況が説明され、情報共有がなされた。

人文科学部門

人文科学部門長 藤田 憲司

1. 授業公開

本年度は、荻田みどり教員が12月21日（木）3・4時限の「総合国語ⅡB」（3年電子制御工学科）の授業時に実施した。学内評価者は人文科学部門の田村修一教員（主査）と自然科学部門の喜友名朝也教員が務め、学外評価者として本校名誉教授の三川譲二先生と京都府立東舞鶴高校教員の高井奈都先生に協力いただいた。

2. 英語デー

10月17日（火）、英語教員三名と荻田教員を実施運営主体として、クラス担任等の協力を仰ぎ、教務委員会主催の学校行事としてTOEICおよびTOEIC Bridgeの団体受験を実施した。日頃の学習の成果および英語のリーディング・リスニング能力を評価する目的で、本科1・2年生はTOEIC Bridgeを、本科3年生から専攻科2年生まではTOEICを受験した。本校後援会の支援を受け、本科3・4年生と専攻科1年生が受験料無料で全員受験、本科1・2・5年生と専攻科2年生は任意受験で、受験者が受験料の一部を負担した。

3. 英語プレゼンテーションコンテスト

第17回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（神戸高専主管）が、11月18日（土）・19日（日）の2日間にわたって開催され、本校からシングル部門に2名が出場した。中間試験に近いこともあり、残念ながらチーム部門の出場はなく、初日のみの参加となった。

出場者および発表題目

〈シングル部門〉

電子制御工学科1年 北嶋 智也 How Can Robots Build Closer Relationships with Humans

電気情報工学科2年 山本 瑞樹 The Perfect Tutor AI for You

4. 外部資金導入

本年度は、人文科学部門教員で、以下の者が科研費等の外部資金を獲得している。

○児玉圭司教員

- ・（研究分担者）基盤研究(B)「近代日本の地域自治一村と大字の法史学的研究一」（代表：川口由彦 法政大学教授）
- ・（研究代表者）基盤研究(C)「官吏・典獄と被収容者から読み解く、明治日本の監獄」

○牧野雅司教員

- ・（研究代表者）若手研究「外交文書の「見た目」から読み解く近世日朝関係の特質」

○荻田みどり教員

- ・（研究代表者）研究活動スタート支援「源氏物語の受容を中心とした食に対する意識の変遷に関する研究」

○山根秀介教員

- ・（研究代表者）若手研究「ウィリアム・ジェイムズの多元論哲学に対するシャルル・ルヌヴィエの影響に関する研究」

5. 国税庁「令和5年度 第62回 税に関する高校生の作文」部門の受賞

3年生「総合国語ⅡA、ⅡB」（田村修一教員・荻田みどり教員担当）の授業において「税に関する高校生の作文」に応募し、以下の本校学生3名が受賞した。1月17日、舞鶴税務署長による授賞式が本校校長室にて執り行われた。

京都府租税教育推進協議会長賞

「税と私たち」 横田 耕史朗（電子制御工学科3年）

舞鶴税務署長賞

「未来のための贈り物」 井上 博之（建設システム工学科3年）

舞鶴税務署長賞

「エンジニアを目指して」 橋本 珠希（建設システム工学科3年）

6. 「放課後教室」の実施

本年度も、自然・人文科学部門合同で「放課後教室」を開催した。これは、学生に学習する習慣を身につけてもらうこと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的としたもので、定期試験前に1～4回、放課後に低学年の教室を利用して行った。前年度に続く試みとして、専攻科生がTAとして前期中間試験に向けての放課後教室に参加し、低学年の学生に学習の指導を行った。なお、放課後教室は今年度を通じて9回開かれ、延べ439名の学生が参加した。

7. 「総合演習」の実施

自然・人文科学部門合同で「総合演習」を実施した。1年生と2年生全員が週に1クラス、習熟度の向上を目的に課題に取り組んだ。

8. 教員の動き

令和5年度末をもって、田村修一先生（嘱託教授）と児玉圭司先生が退職された。

自然科学部門

自然科学部門長 上杉 智子

1. 教育の取り組み

(1) 学年団等の二部門（人文・自然科学部門）による取り組み

令和3年度より、低学年の学生支援や担任のサポートを組織的に行うことを目的として、人文科学部門と協力し、1年学年団、2年学年団を組織している。学年団による活動としては、昨年度までと同様に、学生の情報共有や学生・保護者面談への対応、担任の療養時の担任業務の代行などを行った。そのほか、1年学年団では、6月9日・23日に実施された中学校教員を対象とした学校見学会での、中学校教員と各中学校の卒業生・本校教員との面談のスケジュール設定、面談への対応などを行った。

また、二部門による取り組みでは、1年生、2年生に対するキャリア教育のための企画として、12月4日に1年生全員に対するキャリアガイダンス、12月11日には2年生全員に対するキャリアガイダンスを実施した。さらに、2月13日には1・2年生を対象とした企業見学会（バスによる見学会、定員40名、参加者31名）を実施した。

(2) 中学数学の復習と数学基礎力診断テスト（1年生対象）

4月入学の新入生に対する取り組みとして、入学前の数学の事前課題（宿題）を今年も配布して、新入生に対して中学数学の復習を促している。また、新入生に対して毎年実施している、数学基礎力診断テストについては、昨年度と同様に「総合演習」の時間に実施した。

(3) 入学前ICT教育（入学予定者対象）

翌年度新入生を対象とした入学に向けての学習準備のための取り組みとして、令和3年度より、入学前にICT授業を行っている。自然科学部門では、第1回（1月17日）と第7回（2月28日）授業を担当した。第1回の授業では、入学前ICT授業についての説明と、理科をテーマとしたオンライン授業を行った。第7回の授業では、自然科学部門の紹介を行った後、数学をテーマとしたオンライン授業を実施した。

(4) CBTの実施（1年生・2年生・3年生対象）

CBT「数学」・「物理」・「化学」を、教務係および情報科学センターの協力を得てクラス毎に実施した。「数学」については1年から3年の全クラス（12月5日～21日）、「物理」については2年の全クラス（1月15日・16日）、「化学」については1年の全クラス（12月15日）を対象として実施した。CBTの実施は、トライアルを含めて今年度で7年目となる。今年度の試験は情報科学センター演習室とCALL教室の端末を利用して実施した。

(5) 総合演習（1・2年生対象）

人文科学部門と共同で担当している1・2年生の総合演習の時間では、日々の学習を補うための数学・物理・化学などの演習の指導を行っている。今年度は、時間割の都合上、担当できる一般科目の教員が少なかったため、昨年度に行ったようなオムニバス授業は実施できなかったが、1年生については演習指導のほか、タイ留学生との交流会、スマートフォンについての講話などを行った。また、2年生については、物理の実験レポートの書き方についての講義や、希望者を対象とした生物のDNA模型製作の講座などを実施した。



DNA 模型製作の講座

(6) 放課後教室（主に低学年の希望者対象）

学生に学習する習慣を身につけてもらうことと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的として、今年度も人文科学部門と合同で「放課後教室」を実施した。

今年度は、年4回実施される定期試験（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）の1・2週間前から、週に1・2回程度行った。放課後に人文・自然科学部門の教員が数名待機する教室に学生を集め、授業の予習・復習や試験勉強のための学習支援を行った。また、前期中間試験前の放課後教室では、学生たちの学習のサポートを行う専攻科生を毎回2名程度配置し、質問や相談が行いやすい環境づくりを行った。また、成績不振者には教科担当者や担任から個別に参加を促し、基礎学力の向上を図った。今年度の放課後教室は、年間9回開催され、延べ人数で439名の1・2年生が参加した。

(7) 進学希望の学生に対する学習支援

大学への編入学や専攻科進学を希望する学生に対する学習支援として、数学、物理、化学などの教科について、過去の大学編入学試験や専攻科入学試験の問題について、学生が解答した答案のチェックや解説を行った。

また、来年度以降に向けて、4年生の後期に編入学試験対策のための演習科目を導入するため、理科のカリキュラムの変更を行った。

(8) 理科や数学への関心を高めるための活動

昨年度までに引き続き、物理実験室・準備室および化学実験室・準備室の整備を行い、理科系科目における実験の充実を図り、放課後に理科好きの学生たち、数学好きの学生たちを実験室に集め、それぞれ、理科教員や数学教員の指導のもと、理科や数学に係る活動を行った。

12月4日には、旭川医科大学医学部の伴戸寛徳先生を講師としてお迎えし、「みんなに知ってほしい『感染症』の基本 ～感染症学者はなぜ感染症にかかりにくいのか?～」と題して学生や教職員を対象とした講演会を自然科学部門により開催し、学生35名と教職員12名が参加した。



自然科学部門講演会

2. 地域貢献・学校広報

8月と9月に実施されたオープンキャンパスでは、会場へ来られた生徒や保護者の方に低学年の授業の内容を伝えるため、人文科学部門とともに一般科目の教材展示を行った。

また、小中学生に科学の楽しさを伝えるための取組として、今年度は9件の公開講座「不思議なパズルとフィボナッチ数列」「太陽を観察しよう」「確率がつくる不思議な家」「箱カメラをつくろう」「黒谷和紙とプログラミングで電子行灯を作ろう」「いろんな計算機で平方根を計算しよう」「カレンダー魔法陣」「液晶分子の色を観察する」「ストロー多面体」と1件の出前授業「発見！折り鶴の卵!？」を実施した。

さらに、今年度より、本校学生や地域の方に理科に興味を持ってもらうことを目指して、本校理科教員によるラジオ番組「こじまはかせの有機物ラジオ」(FM まいづる)の放送を月1回行っている。



ラジオ収録の様子

3. ジュニアドクター育成塾の取り組み

本校が平成31年度(令和元年度)に採択されて実施している、科学技術振興機構の行うジュニアドクター育成塾の事業の取り組みにおいて、自然科学部門では、第二段階育成プログラムの受講生のうち、今年度は、数学のテーマ「再帰性と数学」に3名、物理のテーマ「宇宙について調べよう」に2名、化学のテーマ「料理の科学」に1名の受講生を受け入れ、課題研究の指導を行った。令和6年3月24日に実施した研究フォーラムでは、指導した6名の受講生全員がスライドを用いた成果発表とポスター展示を行い、第二段階育成プログラムを修了した。

4. 人事

- 令和5年4月1日、岡田浩嗣教員が教授に昇任された。また、小島広孝教員、喜友名朝也教員が准教授に昇任された。
- 令和6年3月31日に小野伸一郎教授が定年退職される。平成8年4月より37年間の長きにわたり本校で務められ、その功績により名誉教授の称号を授与される。なお、来年度も小野教授には嘱託教授として勤務していただく予定である。

機 械 工 学 科

機械工学科長 篠原 正浩

1. 年間活動の概要

機械工学科の年間活動の概要を以下に示す。

年 月	活 動 内 容
令和5年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生学科ガイダンス (4/7) ・ 学校公開日, 公開講座「ハンドスピナーを作ろう！」(4/29)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開日, 公開講座「3D-CAD を使ってみよう！パソコンで3Dモデル組立て」(5/13) ・ 公開講座 あやべ理工系ことはじめ教室 (北部産業創造センター 綾部市ものづくり交流館)「長さの測定～ノギスの使い方と木製ノギスの作製～」(5/28)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴高専フェア (立命館大学大阪いばらきキャンパス) (6/11) ・ 出前授業「ノギスの作製と使い方 (長さの測定)」舞鶴市立若浦中学校 (6/29)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開日, 公開講座「クレーンを作って遊ぼう！」(7/8) ・ 公開講座 (YIC京都)「ハンドスピナーを作ろう！」(7/23) ・ 公開講座 (YIC京都)「クレーンを作って遊ぼう！」(7/23)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス [学科展示・体験学習] (8/5, 8/6) ・ 学校公開日, 公開講座「ペットボトル掃除機を作ってみよう」(8/26)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス [学科展示・体験学習] (9/3)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「選択摺動式変速機」(10/8) ・ 学校公開日, 公開講座「ポンポン船をつくろう！」(10/14) ・ 出前授業「定規より便利な工具 (ノギス) を作ろう」舞鶴市立和田中学校 (10/17) ・ 卒業研究中間発表会 (10/26) ・ 学校公開日, 公開講座「ドローンを飛ばそう！」(10/28)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「考えて動かそう！きみにもできるロボットづくり」(12/10) ・ 授業公開 (4M 計測工学) (12/8) ・ 出前授業「ペットボトル掃除機を作ってみよう」舞鶴市立朝来小学校 情報科学クラブ (12/15)
令和6年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座【舞鶴こども発明クラブ】「ミニ四駆を走らせて最速タイムを狙おう！」(1/20) ・ 卒業研究発表会 (1/26)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「最速ぼんぼん船の設計」(2/4)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開日, 公開講座「ミニ四駆をチューニングして最速タイムを狙おう！」(3/23)



オープンキャンパス「体験学習」
(手回し発電機)



オープンキャンパス「体験学習」
(スターリングエンジン)

2. 地域企業との連携による実務的授業の実施

機械工学科では4年生の設計製図Ⅳの授業において、地域企業の協力を得て実務に沿った設計手法等を実習形式で学ぶことを実施している。本授業では、機械工学科教員と企業で装置の設計や開発の実務を担当する技術者が連携して授業を展開する。今年度の連携先は、株式会社椿本チエイン、オムロン株式会社綾部事業所、株式会社イシダの3社であった。

株式会社椿本チエインとは令和5年4月10日～7月3日の日程で、人・社会を幸せにする未来新商品の創造に取り組む設計・開発に関する課題に、オムロン株式会社綾部事業所とは令和5年7月12日～11月8日の日程で、生産ラインで使用される部品整列装置の考案に取り組む生産技術の内容に関する課題に、株式会社イシダとは令和5年11月15日～令和6年1月24日の日程で計量器のメンテナンスに取り組むメンテナンスフィールドエンジニアリングの内容に関する課題に取り組んだ。学生にとって学校教員の授業だけでは経験できない実り多い授業となった。



地域企業との連携授業

3. 進路状況

令和5年度5年生の就職希望者は22名(61%)、進学希望者は14名(39%)で全員の進路が確定した。以下に就職先と進学先を示す。

【就職先】

DIC, GSユアサ, アイング, 旭国際テクネイオン, イシダ, 荏原製作所, 鳳工業, クボタ, 小松製作所 大阪工場, ジュイテクト, ダイキン工業, 日産オートモーティブテクノロジー, 日本たばこ産業, 任天堂, パナソニックエナジー, 兵神装備, 本田技研工業, マルホ発條工業, 三菱電機 名古屋製作所/産業メカトロニクス製作所, 三菱電機ビルソリューションズ, ヤマザキマザック, ヤマハ発動機

【進学先】

岡山大学, 香川大学, 金沢大学, 京都工芸繊維大学(2名), 島根大学, 豊橋技術科学大学(4名), 舞鶴高専専攻科(3名), 三重大学

4. 人事異動

令和5年9月1日付で中村 丞氏が助教として着任された。

電 気 情 報 工 学 科

電気情報工学科長 竹澤 智樹

1. 年間活動の概要

電気情報工学科の年間活動の概要を下表に示します。

年 月	内 容
令和5年 4月 5日 22日 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生向け学科ガイダンス ・ 学科主催公開講座「マイクラフトでプログラミングを学ぼう2023」(本校) ・ 4年生創造工学コンセプト発表会
令和5年 5月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科主催公開講座「マイクラフトでプログラミングを学ぼう2023」(本校)
令和5年 6月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科主催公開講座「人工知能(AI)を体験しよう」(本校)
令和5年 7月11日 15日 23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生創造工学成果発表会 ・ 学科主催公開講座「身近なものを使ってIoTを体験してみよう」(本校) ・ あやべ理工系ことはじめ教室「太陽電池で遊ぼう！」(綾部市ものづくり交流館)
令和5年 8月 5日 ～6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス体験学習 「音楽のリズムに合わせて光る！手作りオーディオレベルインジケータ！」 「ゲーム開発を体験しよう」
令和5年 9月23日 26日 29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科主催公開講座「情報ツール活用術 初級編」(本校) ・ 4年生工学基礎研究の研究室配属決定 ・ 5年生卒業研究中間発表会
令和5年10月 3日 12日 24日 30日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生研修旅行(関東方面, 帰校10月6日) ・ インターンシップ報告会 ・ 電気情報工学科特別講演会(電気三学会関西支部主催, 対象: 4年生・5年生) 「富岳時代の大規模分子シミュレーション」 兵庫県立大学大学院情報科学研究科の鷲津仁志先生 ・ 専門アクティブラーニング(AL)連続講義(対象: 3年生, 第2回11月6日) 「PLC特別講義」株式会社太平電機 藤田 智常 様
令和5年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴高専杯プログラミングコンテスト(赤れんが2号棟 舞鶴市政記念館)
令和5年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開「C言語(2E)」(科目担当: 森先生)
令和6年 1月16日 25日 27日 31日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生工学基礎研究発表会 ・ 5年生卒業研究発表会 ・ 学科主催公開講座「QRコードで遊ぼう」(本校) ・ 入学前ICT教育 「人工知能(AI)について」(オンデマンド授業, 対象: 入学予定者)
令和6年 3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科主催公開講座 「生体情報を測定する 脈波センサーの作製を体験してみよう」(本校)

2. 電気情報工学科特別講演会

令和5年10月24日(火)に本学科の特別講演会として、電気三学会関西支部主催の「学生のための講演会」を本校視聴覚教室にて開催しました。兵庫県立大学大学院情報科学研究科の鷲津仁志先生を講師にお招きして、「富岳時代の大規模分子シミュレーション」という題目で講演をしていただきました。講演では、実務経験を通じたスーパーコンピュータのお話や、スーパーコンピュータを利用して得られた研究成果のご紹介、先生の専門分野である摩擦現象のシミュレーションなどについてお話いただきました。学生達は、舞鶴高専ではなかなか聞くことのできない研究分野のお話や、これまでに学習してきた物理や化学の知識がどのように発展していくのかというお話も聞くことができ、大変興味深く講演を聴講しておりました。



特別講演

3. 舞鶴高専杯プログラミングコンテスト2023の開催



アイデア部門のプレゼンテーション

小中学校のプログラミング教育必修化によって多くの関心が集まっているプログラミングの普及のために、小中学生の発想力、表現力、技術力および、発信力の向上を目指し、令和5年11月26日(日)に、舞鶴高専杯プログラミングコンテスト2023を開催しました。コンテスト当日は、18名の小・中学生が参加し、アイデア部門はプレゼンテーション、ゲーム部門はプレゼンテーションとデモンストレーションを行いました。舞鶴市赤れんがパークにある市政記念館を会場として実施しましたが、小・中学生の能力を活かしたアイデアやゲームを見聞きし、参加者と来場者の熱い拍手で包まれていたのがとても印象的でした。

4. 学生による学会発表など

電気情報工学科学生の学会発表を下表に示します。*印は本学科出身の専攻科生です。

年 月	発 表 学 会	発 表 者
令和5年8月	第48回教育システム情報学会全国大会 「特別支援学校教員が児童・生徒のために制作するVR教材の試作」	末久 和幸*
	17th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2023) 「Automatic Detection System for Walking while on the Phone from Surveillance Camera Footage Using CoAtNet and Motion Detection with YOLO」	中嶋 悠斗*
	2023年電気学会産業応用部門大会 「ゲートバイアスによるGaN並列時の閾値電圧差補償」	長谷川和也 <small>他高専出身専攻科生</small>
令和5年9月	第39回 ファジィ システム シンポジウム / FSS2023 「ハンドトラッキングとファジィ推論による手先精密作業の巧拙」	陣川 健斗 <small>S出身専攻科生</small>
	第84回応用物理学会秋季学術講演会 「レーザアニール法によるシリコン基板上金薄膜の微粒子化の検討」	熊谷 昌城* 久木 弘成
令和5年11月	電気学会電子材料研究会 「レーザアニール法による金微粒子の作製」	熊谷 昌城* 久木 弘成
令和5年12月	Material Research Meeting 2023 and International Union of Materials Research Societies - International Conference in Asia 2023 (MRS2023/IUMRS-ICA2023) 「Fabrication of Surface Plasmon Filter using Laser Annealing」	熊谷 昌城*
令和6年2月	令和5年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 「水中ワイヤレス給電の実用化に向けた海水の導電率の測定」	森 真澄*
	「車重変化に対応する高効率な回生システムの構築」	山下 統也*
令和6年3月	令和5年度高専研究発表会 「超音波画像のデータ拡張に向けた画像生成モデルの検証」	小崎 創生
	「表面プラズモン共鳴を用いた蛍光増強の基礎的検討」	寺崎 雅人
	2024年電子情報通信学会総合大会 「リアル人体を用いたがん温熱治療用空洞共振器の電磁界解析」	野口 耕佑

5. 5年生の進路状況

今年度の5年生は、就職希望者が18名(62%)、進学希望者が11名(38%)でした。

【就職(内定企業)】: アイテック阪急阪神, アプライドマテリアルズジャパン, アルファシステムズ, インフォコム西日本, NECネットエスアイ, 京セラコミュニケーションシステム, クレスコ, KDDIアジャイル開発センター, CTCテクノロジー, DSB情報システム, 日東精工, パナソニック, 阪神高速技術, 三菱電機エンジニアリング 鎌倉事業所, 村田製作所 八日市事業所, ローム

【進学(合格先)】: 岡山大学, 岐阜大学, 京都工芸繊維大学, 熊本大学, 筑波大学, 東北大学, 豊橋技術科学大学, 舞鶴高専専攻科 (4名)

電 子 制 御 工 学 科

電子制御工学科長 伊藤 稔

1. 年間活動の概要

電子制御工学科の教員が行なった年間活動の概要を下の表に示す。

年 月	活 動 内 容
2023 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生対象学科ガイダンス (4/5) ・ 公開講座「Python によるデータサイエンス入門」(4/29)
2023 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「身近なものでメロディを奏でてみよう」(5/20)
2023 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴高専フェア in 大阪 (6/11, 立命館大学いばらきキャンパス) ・ 出前授業「LEGO EV3 によるカニ移動ロボットのプログラミング」(6/16, 舞鶴市立若浦中学校) ・ 公開講座「ラジオを作って鳴らそう」(6/24) ・ 出前授業「流れの不思議」(6/29, 舞鶴市立朝来小学校)
2023 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス (8/5-6) ・ 公開講座「半導体ナノテクノロジー」(8/19) ・ あやべ理工系ことはじめ教室「ラジオを作って鳴らそう」(8/20, 北部産業創造センター綾部市ものづくり交流館)
2023 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス (9/3) ・ 公開講座「BASIC によるロボット・プログラミング」(9/9) ・ 公開講座「ユカイな生き物ロボットをつくろう! (製作講習会)」(9/16) ・ 公開講座「リモコンロボットをつくろう! (製作講習会)」(9/17) ・ 4 年生インターンシップ報告会 (9/28)
2023 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 年生研修旅行 (10/3-6, 関東方面) ・ 5 年生卒業研究中間発表会 (10/12) ・ 出前授業「iPad プログラミングで LEGO ロボットを動かそう!」(10/17, 舞鶴市立和田中学校) ・ 公開講座「3D ペンでミニカーをデコレーションしよう」(10/28)
2023 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「ユカイな生き物ロボットをつくろう! (競技会)」(11/3) ・ 公開講座「リモコンロボットをつくろう! (競技会)」(11/4)
2023 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場見学「京セラ(株)綾部工場」(12/4, 3 年生 34 名・4 年生 6 名) ・ 工場見学「(株)SCREEN SPE テック野洲事業所」(12/25, 2 年生 2 名・3 年生 4 名・4 年生 1 名)
2024 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開「電気磁気学Ⅱ」(1/12, 授業担当 西) ・ 4 年生創造設計プロジェクト競技会 (1/15) ・ 5 年生卒業研究発表会 (1/18) ・ 工場見学「(株)堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター」(1/22, 3 年生 32 名・4 年生 3 名)

2. 教育活動

(1) PBL 科目における競技会の実施

1 年生の「メカトロニクス演習 I (担当 仲川)」, 2 年生の「電子制御実習(担当 清原)」, 3 年生の「電子制御実験(担当 石川・西)」, 4 年生の「創造設計プロジェクト (担当 仲川・若林)」においてロボット競技会を実施した。

(2) インターンシップ

夏季休業中に 4 年生 37 名が企業および教育機関でのインターンシップに参加した。インターンシップ参加学生は 9 月に報告会で成果発表を行なった。

(3) 研修旅行

10月に4年生39名が研修旅行(引率教員 西・清原)に参加した。研修旅行では、観光だけでなく企業(サイバーデザイン(株))および大学(筑波大学)を訪問し施設見学なども行っている。

(4) 卒業研究

1月に5年生38名が卒業研究発表会において1年間の研究成果を発表した。

(5) その他

COMPASS5.0 半導体分野 実践校(担当 清原)の取り組みの一つとして半導体関連企業の工場見学を行なった。

3. 学科活動

(1) 公開講座・出前授業

今年度は、教員が個別に実施してきた公開講座以外に、入試広報部会からの要請で学校公開日(学校説明と施設見学)に合わせた公開講座を企画し実施した。また、舞鶴市内の小中学校において担当教員の専門性を活かした出前授業も実施した。これらのイベントには、本学科所属の多くの学生が協力してくれた。

(2) オープンキャンパスなど

6月に大阪で実施した舞鶴高専フェアでは、本学科の概要(学習内容、進路等)について説明し学生が実験実習で製作したロボットの紹介と操作体験を行なった。

8月と9月のオープンキャンパスでは、実験室や研究室を公開し本学科の学習内容や進路等の紹介を行なった。PBL科目で学生が製作したロボットのデモ展示や操作体験を行なった。体験学習として「レゴロボット作って動かそう(担当 高木)」と「ゲーム機を作ってプレイしよう(担当 仲川)」の2テーマを実施した。

これらのイベントにも本学科所属の多くの学生が協力してくれ、イベントに参加した中学生や保護者からも高い評価を得ることができた。

4. 退職教員・転籍教員

野間正泰教授が定年退職となりました。野間教授は豊橋技術科学大学大学院工学研究科修士課程生産システム工学専攻を修了後の1985年4月に機械工学科助手として赴任し、1990年4月の電子制御工学科への配置換え後、教育研究支援センター長、情報科学センター長、学科長などの要職を歴任されました。

川田昌克教授が北九州工業高等専門学校生産デザイン工学科に転籍されました。川田教授は立命館大学大学院理工学研究科情報工学専攻博士課程後期課程を修了後、同大学理工学部電気電子系助手を経てから、1998年4月より電子制御工学科助手として赴任し、教務主事、専攻科長、学科長などの要職を歴任されました。

5. 進路状況

最近5年間の進路状況を下の表に示す。本年度も就職希望者、進学希望者については全員の進路が確定した。今年度は就職希望者の割合が65%と若干高めであった。最近の進学希望者の特徴として、学力で上位校を目指す学生が減少しており、技科大や本校専攻科を推薦で受験する割合が増加している傾向がある。

年 度	卒業予定者数	就 職	進 学 (専攻科・大学編入学)	その他 (自営業・専門学校)
2023年度	38	25	13	0
2022年度	30	14	15	1
2021年度	31	19	12	0
2020年度	34	21	13	0
2019年度	28	14	14	0

建設システム工学科

建設システム工学科長 尾上 亮介

1. 年間活動の概要

建設システム工学科の活動概要を下表に示す。

年 月	活 動 内 容
令和5年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生対象専門学科ガイダンス ・ 公開講座「建築のコンセプトを知ろう！ 安藤忠雄の住吉の長屋」
令和5年 5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「セメントでペーパーウエイトをつくろう～コンクリートのしくみ～」
令和5年 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「空間パースをつくろう「建築ビジュアライゼーションで建築空間を魅せよう」 ・ 公開講座「住宅建築模型制作～建築家 東孝光「塔の家」模型をつくる～」 ・ 出前授業「(養父ふるさとキャリア教育) ダヴィンチの橋」 ・ 4C 現場見学「舞鶴市港湾」
令和5年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「椅子の制作1」 ・ 公開講座「レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう！～模型で学ぶ橋の仕組みと形～」 ・ 公開講座「耐震補強と立体トラス ～地震につよい建物をつくる！～」 ・ 公開講座「住宅建築模型制作～建築家堀部安嗣「屋久島の家」模型をつくる～」
令和5年 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「建築空間をデジタルでリノベーションしよう」 ・ オープンキャンパス
令和5年 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「テンセグリティを作ろう！～宙に浮かぶ構造体～」 ・ 出前授業「滋賀県けんせつみらいフェスタ」 ・ オープンキャンパス ・ 卒業研究/卒業設計 中間発表会
令和5年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「住まいの設計」 ・ 公開講座「住宅建築模型制作～建築家 前川國男 「自邸」 模型をつくる～」
令和5年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「ブリッジコンテスト」 ・ 公開講座「コンクリートブロックでアーチ橋をつくろう」 ・ 出前授業「私たちのまち舞鶴 土木編」 ・ 建設技術展 2023 近畿 学校ブース出展 ・ デザコン in 舞鶴 (主幹校)
令和5年 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前授業「住まいの設計」(白糸中学校) ・ 公開講座「住宅建築模型制作建築家 安藤忠雄「住吉の長屋」 模型をつくる」
令和6年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「椅子の制作2」 ・ 卒業研究/卒業設計 発表会
令和6年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ まいづる土木・建築フォーラム
令和6年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座「住宅建築模型制作～建築家 篠原一男「白の家」 模型をつくる～」 ・ 公開講座「椅子の制作3」 ・ 公開講座「住宅建築模型制作～建築家 増沢洵「最小限住居」 模型をつくる～」 ・ 出前授業「住まいの設計」(城北中学校)

2. 教育活動

(1) 4年生インターンシップ

インターンシップに参加した学生は23名。対面ですべての企業がインターンシップを実施した。インターンシップに参加することで、リアルな職場の雰囲気を知ることができ、先輩社員の方からのアドバイスなど、自分の将来について考えるきっかけとなった。インターンシップ先に就職した学生も複数名おり、大変有意義な取り組みとなった。

(2) 現場見学会

舞鶴市の舞鶴西港、国交省工事現場、京都府工事現場、京都府管理施設（うみとびら）の現場見学を実施した。舞鶴西港の見学では、業務艇に乗船し、舞鶴湾の特徴および港湾施設、視察、工事現場&うみとびらの見学を行った。（写真1、2）



写真1 業務艇に乗船しての見学



写真2 京都府管理施設（うみとびら）の見学

(3) 研修旅行

令和5年10月3日～6日にかけて東京方面への研修旅行を実施した。研修内容は、東京現代美術館、建設資材メーカーであるTOTOが運営するTOTOギャラリーの見学や防災科学研究所、東京大学などを見学した。日本を代表する建築や研究施設を実際に見学することができ、充実した研修旅行となった。

（写真3、4）



写真3 辰野金吾設計の東京駅の前で記念写真

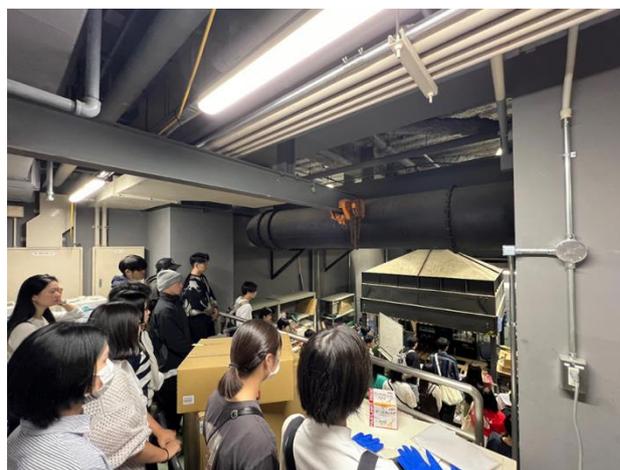


写真4 実験施設の見学風景

(4) 第13回まいつる土木・建築フォーラム

令和6年2月14日（水）に当学科主催のフォーラムを開催した。5年生が卒業研究で取り組んだ地域に関連したテーマを中心に口頭発表を行った。聴講者として本学科の3、4年生が参加し、次年度の研究室選びや上級生の研究成果について理解を深めた。（写真5、6）

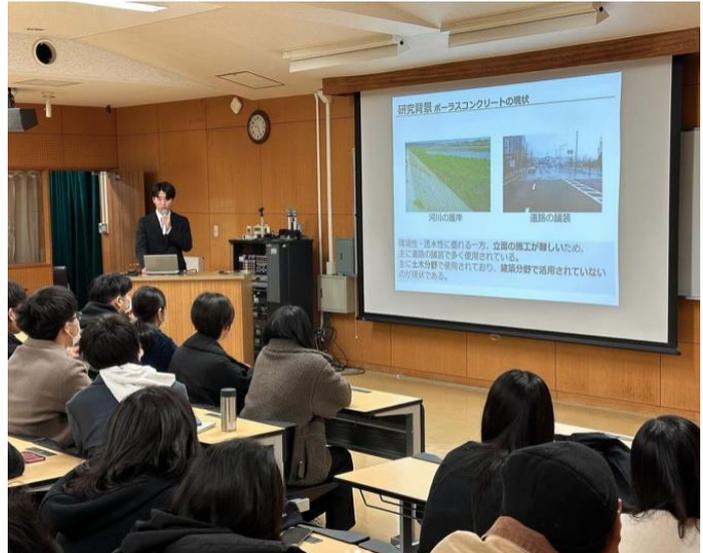


写真 5, 6 学生の発表風景

3. 学科活動

(1) 公開講座, 出前授業

公開講座は、建築をテーマとした「住宅建築模型制作」、「椅子の制作」を実施。都市環境系のテーマとして、「テンセグリティ〜宙に浮かぶ構造体を作ろう!」などを実施した。出前授業では、「住まいの設計」を舞鶴市内の中学校2校で実施した。(写真7, 8)



写真 7, 8 出前授業・公開講座の様子

4. 進路状況

令和5年度卒業生の進路は下表のとおりである。

令和5年度進路状況

コース	就職			進学・編入学			合計
	民間企業	官公庁	小計	専攻科	大学学部	小計	
都市環境	13	2	15	3	4	7	22
建築	9	1	10	3	7	10	20
合計	22	3	25	6	11	17	42

図書館

学術情報センター長 伊藤 稔

1. 舞鶴高専図書館だより第101号の発行

今年度、大内委員の取りまとめにより、各クラスの図書委員により第101号の「図書館だより」を発行することができた。この第101号は、「図書館の今」「委員からの本紹介」「本」とは何か「今年度の活動」のトピックスで構成されている。「委員からの本紹介」では、図書委員によるおすすめ本の熱い紹介が数多く掲載されている。図書館だよりの体裁も高専生らしいセンスでまとめられている。本好き図書委員の想いが詰まった「図書館だより」を手にした学生にとって、図書館への興味や関心を喚起されることを期待する。



CONTENTS
 図書委員選りすぐりの本が多数
 あなたも知る有名本から
 あなたの知らない逸品まで

- #4 図書館の今
 この学校の図書館って何があるの？
 意外と知らないマニアックな本
- #6 委員からの本紹介
 1年：入学してはや1年、そんな彼らの選ぶ本は？
 2年：2度の深雪を越えた彼らに好まれる本とは？
 3年：専門領域に到達した、彼らに選ばれた本は？
- #13 「本」とは何か
 本をこよなく愛する人にとって本とは
- #14 今年度の活動
 図書館の魅力をどのように伝えるか
- #15 編集長より

図書館の今 #4
 この学校の図書館には何がある？

5年間では到底読み切れない!! 充実したジャンルと物量

現在図書館には約92,000冊あり、学校らしく貯蔵の中でも特に力を入れており、自然工学・工学系の本を多く貯蔵している。

雑誌にも相当量を入れており一般的なファッション雑誌から電子工作・機械工作に特化したマニアックな雑誌まで数多くそろっています。

一般的な市立図書館などで見つけることの難しい専門性の高い本を見つけやすいことが最大の特徴

委員からの本紹介 #6

入学してからはや1年
 彼らを選ぶ図書とは？

名前のない怪物
 機械工学科 加藤 縁

神秘、恐怖、絶望——
 これらが絶妙に絡み
 合ったこの物語に
 あなたはほとんど飲み
 込まれるでしょう

ダ・ヴィンチ
 建設システム工学科 陌間 聡志

新刊や過去の名本を中心とした幅広い雑誌
 何の本を読めばいいか迷っている人におすすめ

世界で一番美しい
 元素図鑑
 電子制御工学科 和泉穂花

118の元素をオールカラーで美しい写真とともに紹介
 化学ファン必携の一冊であると同時に、ユーモアにあふれた面白い注釈にも注目です

いたずらきかんしゃちゅうちゅう
 建設システム工学科 田畑 有太

小さな機関車「ちゅうちゅう」と三人の物語
 彼らの対話に注目すると楽しめる作品です

#9

「本」とは何か? #13

本をこよなく愛する部員の声を聴いてみる

2C 田畑 有太	1S 森川 璃久
-------------	-------------

僕にとっての本とは、何時でも手に取れて新しい知識や感動を与えてくれる、そんな存在です。
 本といえば、そばにあることが当たり前で、ゲームを買ってもらえなかったことも重なり本を読むというのが当たり前であった。しかし、他に読書ばかりしている気の合う人はそう多くなく、個人の趣味としての面が大きいのを感じました。

「本を読む」という事柄において一番大切なことは本を読むことを楽しんでいるかどうか、という点だろう。どんなジャンルの本にでも共通していることとして、文字には物事を言語化し、より理解を深める力があり、その力をまとめたものが本であるならば、本とは作者の多くの思いが詰まっている知識の宝庫だ。やはり、それを存分に楽しむことが読書だ。

2. 令和5年度舞鶴工業高等専門学校紀要第59号の発刊

今年度、小島委員の取りまとめにより舞鶴工業高等専門学校紀要第59号を発刊することができた。11月に原稿の募集を開始し、4件の投稿があった。紀要編集委員会で投稿された原稿全てを掲載と決定し、令和5年3月に発刊された。

3. 長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システム

長岡技術科学大学附属図書館が、全国立高専55キャンパスと連携し、当該システムを管理・運用している。このシステムの最大の特徴(利点)は、同大学にサーバ管理業務を集約し、システム管理やメン

テナンス等を同大学が一元的に行っている点である。なお、現行システムは第4期に当たり、令和5年3月に開始された。

4. 研究支援サービス

図書館ホームページ中の「研究支援サービス」のページより、以下の電子ジャーナル及び学術情報データベースなどを提供している。

■ヨミダス文書館

- ・1986年9月以降の読売新聞がネットで読めるオンライン・データベースです。

■MathSciNet

- ・アメリカ数学会（AMS）作成の数学文献（雑誌論文、書籍、会議録等）の書誌及び抄録を1940年から収録したデータベースです。

■ScienceDirect

- ・エルゼビアが発行する2,500以上の科学・技術・医学・社会科学分野のジャーナルに加えて、エルゼビア以外の協力出版社のジャーナルも搭載しています。

■AIP/APS

■Science

- ・アメリカ科学振興協会によって発行されている科学全般を対象とする学術雑誌です。

■国立情報学研究所

- ・国内の学会、研究者、図書館等が作成している学術的なデータベースを横断検索します。

■CiNii（論文情報ナビゲータ）

- ・国内の学協会が発行する学術雑誌の本文を見ることが出来ます。

情報科学センター

学術情報センター長 伊藤 稔

情報科学センターには、「教育・研究部門」と「機器運用部門」の2つの部門がある。教育・研究部門では、学術交流に関する講演会、全学生対象のネットワーク講習会などを行っている。機器運用部門は、校内の教育、研究および業務において使用するサーバやネットワーク機器類の維持管理と教育用電子計算機システムの運用を行っている。

1. 教育・研究部門

■学術情報センター講演会

情報科学センターでは産官学の技術交流の一環として、学内外の技術者や研究者が情報交換を行う場とし、年に1回の講演会の企画・開催を行っている。

第47回学術情報センター講演会（令和5年11月22日（水）13:30～15:30）

- ・建設システム工学科 平子 遼 助教
「災害で後悔しない資産形成セミナー ～リスクマネジメント編～」
- ・人文科学部門 荻田 みどり 准教授
「読み継がれてきた『源氏物語』」



■ネットワーク利用講習会

情報科学センターでは、毎年、全学生を対象にネットワーク利用講習会を行っている。今年度は、1年生については対面での講習会とeラーニングコンテンツの併用、2年生以上についてはeラーニングコンテンツを利用した講習会を実施した。ほとんどの学生が真面目に取り組んでくれた。明らかになった問題点など、次年度以降の講習会に反映し、よりよい講習会に改善していきたいと考えている。

2. 機器運用部門

■教育用電子計算機システムの管理・運営

平成29年4月から7年間利用してきた教育用電子計算機システムは、今年度末に延長リースを終えることとなった。このため、今年度は機器更新のための仕様策定と入札が行われ納入業者が決定した。新システムは、前システムと同じく、OSをサーバ上のイメージから起動し使用するネットワークブート方式である。次年度からの大きな変更として、システムが導入される演習室が削減されることが挙げられる。情報科学センター演習室と本館2階CALL教室については従来通りであるが、電子制御工学科棟3階CAD/CAM教室と専攻科棟情報演習室が学生所有のパソコンを用いたBYOD (Bring Your Own Device) による授業教室となり、2部屋体制となる。



■ 校内LAN基幹システムの運営

平成31年（令和元年）4月より5年間利用してきた校内LAN基幹システムは、今年度末にリース期間が終了することとなった。このため、今年度は機器更新のための仕様策定と入札が行われ納入業者を決定した。新システムは、前システムと同じく、物理サーバ3台構成のシステムであり、各サーバについては仮想サーバとして運用するシステムである。

■ 高専統一ネットワークシステム

令和4年の12月末に更新した新システムの運用から1年が経過した。しかし、本原稿執筆時点でも校内ネットワークへの接続などに調整中の部分が残っており、納入業者と調整を行っている。

■ Moodleサーバの運用

今年度からLMS（Learning Manage System）として、舞鶴高専Moodleと高専機構WebClassの2種類のLMSが利用されるようになった。当初の計画では、MoodleからWebClassに移行する予定であったが、教務委員会の方針で計画変更し、当面は2つのLMSを併用することとなった。WebClassへの移行を一旦中止にした理由として、以前あった高専機構Blackboardの存在がある。舞鶴高専Moodleは、先見性のある教職員により運用が開始された。その後、その利便性から教職員の間で利用が拡大し、コロナ禍の遠隔授業を経て学校全体で利用されるようになった。利用拡大に伴い、令和2年度にサーバ容量の拡張を行うなど、情報科学センターとして、舞鶴高専の教育活動を下支えてきた。今後も引き続き、教務委員会とも連携しながら、舞鶴高専Moodleの運用を行っていく予定である。

3. その他

■ 令和5年度近畿地区高等専門学校情報処理教育連絡協議会

今年度は、奈良高専の主幹でMicrosoft365 Teamsによるオンライン開催で行われた。各高専の情報部門の運営などについて意見交換を行った。来年度は近畿大学高専の主幹で開催される予定である。

日 時：令和5年9月6日（水）13:30～

場 所：Microsoft365 Teamsによるオンライン開催

参加校：舞鶴高専、明石高専、奈良高専、和歌山高専、大阪公立大学高専、神戸市立高専、近畿大学高専

教育研究支援センター

教育研究支援センター長 谷川 博哉

教育研究支援センターでは、昨年度に引き続いて、教育研究の支援ならびに地域貢献等に関連して、さまざまな取り組みを行った。人員関係では、現在、常勤11名、再雇用1名体制で職務を遂行している。令和5年度国立高等専門学校職員表彰では、日頃の研鑽により、西村技術専門職員が若手奨励賞を受賞し、本校にとっても大変栄誉となった。また、「タイ高専1ヶ月研修」の派遣依頼が明石高専からあり、北代技術専門職員が実施協力を行い、高専間連携で貢献している。

以下に、本年度に技術職員が取り組んだ活動および成果について報告する。

1. 教育研究支援

本年度も昨年度までと同様に、実験・実習を中心として教育研究支援の役割を果たしてきた。

また、各学科で行われている出前授業や公開講座などの地域貢献や学校PR事業も多数支援し、学科・学校運営に大きく貢献している。

2. 事務のDX推進への協力について

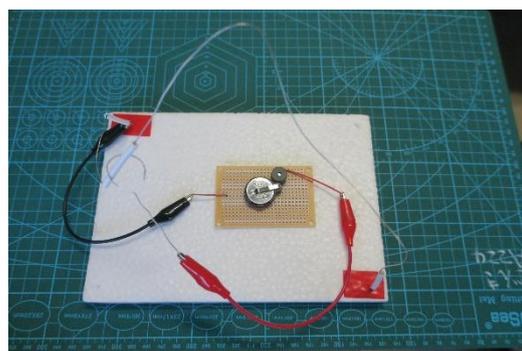
舞鶴高専では、令和元年度より電子版出席簿を利用した全学的な出欠管理システムが運用されている。科目担当者が授業時間ごとの出欠を入力できるようになっていて、学生が欠席理由を入力するための申請フォームや、欠席した科目の一覧を18:00頃に個別のメールでお知らせする機能なども備えている。

また、令和5年度の当初はコロナ禍の影響が残っており、登校前の学生に健康状態を回答してもらうための健康調査システムが、4月初めから(新型コロナの5類移行後の)5月中旬まで運用された。7月中旬にはコロナ陽性の待機学生が多数出たことから、7月下旬から8月初めにかけてその運用が再開された。

上記2つのシステムは、本センターの技術職員が開発および運用を行ったものである。このように、本校の事務部では、業務のDX化を推進している。令和5年度は、高専高度化推進経費による学校改善事業の一環として、事務職員を対象としたDX推進講習会が10月に開催された。本センターの技術職員がコンテンツの資料作りや講習会当日の講師を務め、実習形式にて実施された。実習中は技術職員数名がサポートを行い、大多数の受講者が課題を達成することができた。講習会后、事務職員から事務業務のDX化について相談があり、数件の技術支援を行った。また、主に事務部係長職以上の業務端末をノートPC化し、会議へのシームレスな参加とペーパーレス化を推進するための支援を行った。

3. 公開講座・出前授業

本年度は小中学生向けに公開講座を3回、出前授業を3回実施した。昨年度も実施したマイクラフトを用いたプログラミング講座と野菜電池の公開講座に加えて、今年度は「電気を使ったイライラ棒を作製してゲームをしよう」を新テーマとして取り組んだ。本講座は身近な電気の基本回路について説明した後、半田ごてを用いて回路作製に取り組む内容である。針金コースの設計後、電気回路と組み合わせ、針金同士が接触するとブザーが鳴るようにゲーム性を持たせるようにした。来年度も身近なテーマを取り入れながら、さまざまな学びと楽しみを提供していきたい。

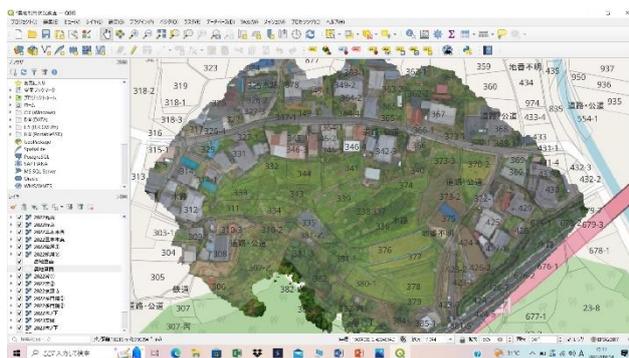


4. 地域連携（地域貢献）受託研究

昨年度に引き続き、西村良平技術専門職員は、舞鶴市からの受託研究を受け「遊休農地対策（農地利用状況調査）に係るドローン活用研究」についての研究を行った。農地利用状況調査は、農地法に基づき、毎年市内全域の農地の利用状況を目視により確認しており、夏の酷暑のなか紙の地図をもって農地を1筆ごとに確認して歩くことは体力的にも厳しく、時間を要している。そこで、調査にドローンを用いることで労力・時間の省力化を図ることを目的に研究を行った。

8月に舞鶴市内の2区域でドローンを飛ばし、静止画・動画の撮影を行った。撮影された画像をもとに判定を行い、目視で行われた調査と比較した。判定ではGISソフトを用いることで時間の省力化を行うことができた。

また、3月には舞鶴市の農業委員、推進委員に対してこれまでの研究成果の報告会を行った。



5. 表彰・受賞

西村良平技術専門職員が、令和5年度国立高等専門学校職員表彰において「ドローンを用いた広報活動および地域貢献」の題目で若手奨励賞を受賞し、令和6年1月26日（金）には学術総合センターで表彰式が行われた。

職員表彰は、業務改善、教育支援業務・研究支援業務・学生支援業務等において、特に高く評価できる成果が認められる職員を表彰することにより、職員全体の職務遂行意識の高揚を図ることを目的として、平成23年度から実施されている。

西村技術専門職員は建設の分野でも使用されているドローンの技術を磨き、学生や地域への還元を行ってきた。令和元年度よりドローンを用いた写真や動画の撮影を開始し、撮影された写真や動画は本校のPR動画やホームページ等に使用され、広報活動を行ってきた。また、舞鶴市や地元地域に対するドローンの操縦技術や活用に関する技術相談対応など、地域貢献も行っている。

令和3年度からは、舞鶴市農業委員会と協力し、遊休農地対策（農地利用状況調査等）に係るドローン活用の研究を行っており、西村技術専門職員は舞鶴高専におけるドローンの第一人者としてあらゆる場で活躍している。



地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンター長 玉田 和也

地域共同テクノセンターは地域貢献活動の推進，および地域の企業や官公庁との連携の強化を目的として，種々の活動を実施しています。令和5年度の主な活動内容を以下に報告します。

1. 舞鶴高専地域テクノアカデミア

舞鶴高専地域テクノアカデミアは，本校と地域産業界の連携強化のために設立された企業団体で，地域共同テクノセンターはその活動推進を担当しています。

総会は，今年度は対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し，会員企業や地元自治体関係者及び本校関係者ら23名が参加し，昨年度の事業報告や今年度の事業について話し合われたほか，舞鶴高専の活動報告，林康裕校長による「40年の研究者人生を踏まえた舞鶴高専校長の抱負」と題した講演が行われました。



総会オンラインの様子



総会対面の様子

2. 展示会

舞鶴高専および教員の研究成果をPRするために積極的に展示会に出展しています。

■建設技術展2023近畿（11月1日，2日）

「インテックス大阪」にて開催された建設技術展2023近畿に学校ブースを出展しました。今年度の建設技術展は，ブース数276（内，学校12ブース），来場者数延べ17,165人でした。民間企業の出展が増え，防災・維持・更新技術のブースが盛況でした。

舞鶴高専の学校ブースでは，学校紹介，学生募集，学科紹介，iMecの紹介などのパンフレットの配布を行いました。多くの進路先企業の皆様と情報交換を行うとともに，舞鶴高専の卒業生がブースにたくさん足を運んでくれました。



3. 公開講座・出前授業

舞鶴高専では、地域貢献の重要な手段として、公開講座と出前授業に積極的に取り組んでいます。令和5年度は公開講座を80件、出前授業を26件実施しました。地域共同テクノセンターは公開講座・出前授業を管轄しており、今年度からは実施予定のチラシを9.5万枚印刷し、近隣の中学生全員に配布するなど活性化に向けた取り組みを行っています。



綾部市立 豊里小学校出前授業
「電気を使ったイライラ棒を
作製してゲームをしよう」



公開講座「マイクラフトで
プログラミングを学ぼう」



公開講座「住宅建築模型制作」

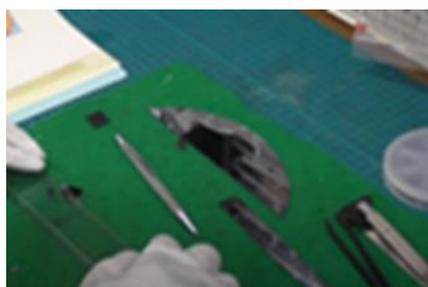
4. ナノテクノロジー教育センター (ntec)

5Gスマートフォン、AIロボット、データセンター、電気自動車、自動運転を始めとする最先端の技術が進むにつれて、ナノテクノロジーによって製造される半導体が搭載された電子デバイスの需要が年々急増しており、世界的な半導体不足が問題となっていました。

現在、半導体の受託生産において最大手である台湾のTSMCが熊本県に工場を開設し、国内における半導体不足の解消に期待されていますが、稼働時に1,700名もの半導体エンジニアが必要とされています。そのため佐世保高専では九州工業大学の設備を利用し、半導体人材育成のための実習が行われています。今後、九州、沖縄の9高専以外の高専においても半導体人材育成が求められています。舞鶴高専ではナノテクノロジー教育センターと清原研究室に半導体プロセス（前工程）に関わる設備が揃っています。そこで、これらの設備を用いて「半導体人材育成基礎プログラム」を実施し、小・中学生、本校学生を対象に半導体デバイスプロセス（前工程）の基礎知識について習得してもらうことで、半導体エンジニアの育成を行っています。

清原研究室で開発した超音波振動液滴室温ナノインプリントリソグラフィ（Ultrasonic Vibration Droplet Room-temperature Nanoimprint Lithography：以下 USV-DRT-NIL）を「半導体人材育成基礎プログラム」に利用しています。

小・中学生を対象とした公開講座に加え、半導体業界に興味がある本校の学生（全学科全学年）を対象に「半導体人材育成基礎プログラム」を実施しました。公開講座ではマスク転写パターン形成まで行っていますが、より高度な内容にするため本プログラムではDLCパターンを形成するところまで行っています。その実施の様子を下記に示します。受講後のアンケート結果より、半導体デバイスプロセス（前工程）についての理解度が9割に増加しました。また、半導体エンジニアを目指したいとの回答が8割もあり、半導体人材育成教育として半導体デバイスプロセス（前工程）の基礎を学んでもらうことは有効であるといえます。



(a) シリコンウェハの切り出しおよび洗浄



(b) USV-DRT-NILによるパターン形成



(c) ECRイオンビームによるドライエッチング



(d) SEMによるパターンの観察・計測

専攻科2年生は特別研究，専攻科1年生は特別研究基礎，5年生は卒業研究，また学会発表や展示発表などを行うためにナノテクノロジー教育センターを利用しています。

清原研究室では，産学官共同研究の下でPDMSモールドを用いたUV液滴室温ナノインプリントによるダイヤモンドライクカーボン（DLC）を素材とした次世代プラットパネル用ナノエミッタやMEMSの摺動部品であるマイクロギヤの作製を行っており，ECR型イオンシャワーによるDLC膜の加工や転写パターンやイオンシャワー加工後のDLCパターンの観察に走査型プローブ顕微鏡を使っています。これらの得られた研究成果は，2023年度精密工学会関西地方定期学術講演会，第71回応用物理学会春季講演会，THE 高専@SEMICON Japan 2023にて発表しました。

石川研究室では，有機EL材料を応用した有機放射線検出器の開発を行っており，真空蒸着装置を用いて有機デバイスを作製しています。

内海研究室では，表面プラズモン共鳴吸収を利用したカラーフィルタ，シリコン太陽電池および半導体教育用ショットキーバリアダイオード教材の開発を行っています。また，これらの成果については応用物理学会で発表しました。

今後，ナノテクノロジー教育センターは，半導体ナノテクノロジーの基礎知識の習得の場として，また京都府北部の中小企業に対して最先端のナノテクノロジー（超微細加工技術）に触れる場として産学共同研究の拠点となることを望んでいます。

5. 知的財産セミナー

地域共同テクノセンターでは，本科4年生を対象とした知的財産セミナーを9月27日（水）に開催しました。

弁理士 村上太郎氏に知的財産の基礎知識と企業における知的財産実務，コメント配信システム特許訴訟（ドワンゴ vs FC2），椅子式マッサージ機特許訴訟（フジ医療器 vs ファミリーイナダ），パイオニア発明の知財戦略（ダイヤモンド半導体を例として），建築業界における知的財産，ChatGPTと知的財産について講義をしていただきました。

技術者として最低限知っておくべき知的財産に関する基礎知識を話題の技術を例として学びました。非常に興味深く聞き入る学生が多く，積極的に知財に関するクイズに解答する多くの学生たちの姿が見られました。



社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

安全・安心な暮らしには、橋梁やトンネル、高速道路等の社会基盤（インフラ）の適正な維持管理が不可欠です。インフラの老朽化が全国的に問題となる中、市町村では技術力不足のため適切な維持管理が困難な状況にあります。『建設』から『維持管理』へ思考を転換し、インフラの維持管理や修繕等に対応できる人材の育成が急務となっています。

iMecでは、全国の建設系の高専生、行政機関技術職員、民間企業技術者等を対象に、地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラムを実施しています。今後もインフラメンテナンス技術者の育成にますます尽力するとともに、予防保全の中核的施設として地域固有のニーズに応え、地域社会に貢献してまいります。

1. 社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）講習会

e+iMec講習会では、事前学修として講習会2週間前よりeラーニングを行い、iMecでの講習会は体験型学修に重点を置いてアクティブ・ラーニングを行うことで、効率的かつ効果的な教育を行っています。学修ニーズに対応して、橋梁点検、橋梁診断、専門特修講座（構造物の詳細調査、橋梁長寿命化対策、施工技術と施工管理、建設ICT）、地盤と斜面、コンクリートの品質管理の講習会を実施しており、今年度はe+iMec講習会を22回開催し、162名が受講しました。また、令和6年3月末時点での累計受講者数は、1690名です。

橋梁メンテナンス技術者育成のステップアップ型教育プログラムとして、基礎編（橋梁点検）、応用編（橋梁点検）及び橋梁診断講習会を実施しており、講習会修了後に実施する技術資格認定試験の合格者には、（独）国立高等専門学校機構として技術資格（准橋梁点検技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者は国土交通省登録資格）を認定しています。令和6年3月末時点での資格登録者数は、准橋梁点検技術者674名、橋梁点検技術者は80名、橋梁診断技術者は4名です。

“e+iMec講習会”

produced by Infrastructure Maintenance Educational Center



～地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラム～

eラーニングと講習会を組合せたアクティブ・ラーニング（能動的学修）

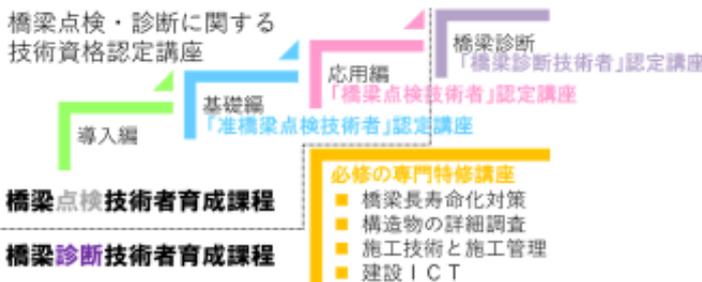
オンデマンド型自己学修支援システム

- ・講習会前の事前学修
- ・講習会後の継続学修



社会基盤の維持管理に関する実践的教育施設で座学と体験型学修による効果的な教育を実施

《 橋梁点検技術者育成のためのステップアップ型教育プログラム 》



	開催概要	受講実績 (R6.3月末)		
基礎編	毎年度10回程度 4月～12月に開催 (月1・2回程度) 2日間講習@iMec	行政	254人	1209人
		民間	796人	
		学生	159人	
応用編	毎年度2回程度 8月～9月に開催 3日間講習@iMec	行政	26人	167人
民間	141人			
橋梁診断	毎年度1回程度 12月～1月に開催 2日間講習@iMec	行政	3人	14人
民間	14人			

- (独)国立高等専門学校機構認定技術資格(『准橋梁点検技術者』、『橋梁点検技術者』及び『橋梁診断技術者』)を取得可能
- 『橋梁点検技術者』(は国土交通省登録資格(品確技資第170号・品確技資第183号))
- 『橋梁診断技術者』(は国土交通省登録資格(品確技資第336号・品確技資第342号))

技術資格認定登録状況 (R6.3月末)

准橋梁点検技術者 674人 橋梁点検技術者 80人 橋梁診断技術者 4人



2. 橋梁診断技術者育成課程及び実務家教員育成研修プログラム

iMecでは、4つの専門特修講座【構造物の詳細調査】、【建設ICT】、【橋梁長寿命化対策】、【施工技術と施工管理】と橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】から成る『橋梁診断技術者育成課程』と、建設（社会基盤の整備及び維持管理）を専門領域とする実務家教員を育成する『実務家教員育成研修プログラム』を実施しています。



国際交流センター

国際交流センター長 藤田 憲司

1. 国際交流センターの運営

国際交流センター運営委員会のメンバーおよび業務分担は以下のとおりである。

氏名	業務分担	備考
藤田 憲司	統括, KMITL との連絡調整, 海外研修旅行訪問大学との連絡調整, 留学支援	国際交流センター長
大内 真一郎	国際交流学生大使 (SA) 指導, KMITL 研修生指導	人文科学部門
奥村 昌司	KMITL サマートレーニング運営	自然科学部門
小林 洋平	KMITL 研修生指導, KMITL 研修生受け入れ次年度担当学科との連絡調整	機械工学科
船木 英岳	KMITL 研修生指導	電気情報工学科
仲川 力	KMITL 研修生指導	電子制御工学科
渡部 昌弘	KMITL 研修生指導, KMITL 研修生受け入れ担当学科との連絡調整	建設システム工学科
増永 武夫	事務手続きの承認	総務課長
下元 利之	事務手続きの承認	学生課長
田中 智也	事務手続きの実施	学生支援係長
嵯峨 信子	事務手続きの実施	学生課職員

2. 国際交流センターの活動概要

① 海外協定校からの外国人研修生受け入れ

令和5年6月12日(月)から7月7日(金)にかけて、タイ王国キングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)の学生1名(男子)をインターンシップ研修生として受け入れた。コロナ禍の受け入れ中止期間をはさみ4年ぶりの受け入れ再開となった。

研修生を関西国際空港で出迎え、本校に引率後、オリエンテーションを行った。その後、本科一般科目の低学年授業を中心に学生交流、プレゼンテーション等の指導、自己研修プラン作成支援、最終報告会の準備支援を行った。建設システム工学科の受け入れプログラムでは、同学科の平子教員指導のもと、災害リスクの解析とハザードマップ作成をテーマに実習を行った。その他、課外活動として弓道、剣道、華道、茶道の体験をとおして学生との交流を持った。研修の最後には、本校学生、指導教員、教職員等を交え、報告会を行い、林校長より修了証が授与された。



② 海外インターンシップ

専攻科生を対象に、夏季休業期間内の約3週間にわたって実施される海外インターンシップの募

集を行い、電気電子システム工学コース1年生1名をタイの KMITL に派遣した。研修期間は令和5年8月10日(木)から8月31日(木)までで、電気工学科 (Department of Electrical Engineering) の指導教員の研究室に配属され、研修を受けた。研修後には、本校で報告会を実施し、単位認定された。

③ 海外研修旅行

渡航費高騰のため国内での実施となった。

④ 留学支援

・学生の海外活動促進を目的に「舞鶴高専海外留学スタートアップ支援」プログラムを創設し、奨学金の支援を行った。選考の結果、6名が採用となり、支援金の補助を受けて、2月～3月に短期留学を実施した。渡航先は以下のとおり。

4年生2名 インドネシア
2年生2名 オーストラリア
2年生1名 台湾
1年生1名 カンボジア

・「トビタテ！留学 JAPAN」奨学金申請支援（高校生コースに1名，大学生コースに1名が応募）
・AFS 留学プログラムに2年生1名が申請し，採用となった。

⑤ その他の活動

SAメンバーが KMITL 研修生との交流を企画・運営した。

生命倫理委員会

生命倫理委員会委員長 玉田 和也

生命倫理委員会は、本校教職員が行うヒトを対象とする研究に対し、人間の尊厳及び人権が守られ、研究の適正な推進が図られるようにすることを目的としています。今年度は以下の日程で開催しました。

1. 生命倫理委員会の開催と審議内容について

○第1回生命倫理委員会：令和5年4月11日

・研究計画の倫理審査について（4件）

申請者 徳永 泰伸

研究課題名 「建築音環境に関する研究」「建築視環境に関する研究」「建築複合環境に関する研究」
「建築環境下における在室者の心理・生理状態に関する研究」

○第2回生命倫理委員会：令和5年9月27日

・研究計画の倫理審査について（1件）

申請者 丹下 裕

研究課題名 「スマートフォンを用いた盲ろう者のための手書き文字出力システムの開発」

○第3回生命倫理委員会：令和5年11月29日

・研究計画の倫理審査について（1件）

申請者 森 健太郎

研究課題名 「滑面小胞体擬集塊（sERC）卵子における顕微授精時の卵子形態および顕微授精の穿刺位置がその後の胚発生に与える影響の解析」

○第4回生命倫理委員会：令和6年2月21日

・研究計画の倫理審査について（1件）

申請者 若林 勇太

研究課題名 「飛行型ソーシャルロボット“フーボ”に関する検証」

情報セキュリティ推進委員会

情報セキュリティ推進委員会委員長 伊藤 稔

情報セキュリティ推進委員会は、本校の情報セキュリティに関わる専門的及び技術的問題の審議と、情報セキュリティの推進を行うことを目的にしている。

1. 情報セキュリティインシデントへの対応

残念ながら、今年度も3件のインシデントが発生した。5月に発生した1件目のインシデントは、事務資料作成ミスに起因するインシデントであった。6月に発生した2件目のインシデントは、宛先Aに送るべき案内を宛先Bに送信したメール誤送信であった。10月に発生した3件目のインシデントも、宛先Aに送るべきメールをメーリングリスト宛に送信したメール誤送信であった。それぞれの事案について、高専機構 CSIRT のアドバイスのもと、全教職員に対する注意喚起などの対応を行った。

2. 情報セキュリティに関する情報共有と注意喚起

今年度も情報セキュリティに関して多くの注意喚起や情報共有を行ってきた。5月と6月に発生した2件のインシデントに関連したものとして、6月に「資料を送信する際の内容の十分な確認について」の注意喚起を教職員向けに行った。本校の教職員の日々の業務に大きな影響を与えるものとして、9月に「外部電磁的記録媒体への要機密情報保存禁止について」の注意喚起を行った。また、12月には「メールアドレスとそのパスワードの流出について」の注意喚起を行い、本校で管理する該当メールアドレスについて対応を行った。他にも高専機構 CSIRT からの注意喚起や情報共有があったものは、必要に応じて教職員向けに注意喚起や情報共有を行った。

3. マルウェア対策ソフトウェアの切り替え

高専機構により共同調達されていたマルウェア対策ソフトウェア (Apex One) の契約が終了した。本校では、費用や性能などの観点から、新しい共同調達には参加せず独自に調達を行った。新しいマルウェア対策ソフトウェアとして ESET Endpoint Antivirus を導入し11月末に切り替えを行った。Mac において初期トラブルが発生したが、本原稿執筆時点では特に問題なく運用できている。

4. 教職員および学生向け情報セキュリティ講習会

今年度は、令和4年度に本校で発生した情報セキュリティインシデントに関連し、6月に教職員向けの情報セキュリティ講習会を実施した。学生向けとして、入学式後に新1年生を対象に Microsoft 365 と Gmail のアカウント設定講習会を実施し、その中で多要素認証の設定を行っている。全学生を対象としては、毎年、ネットワーク利用講習会 (1年生向けに対面、eラーニング、2年生以上にはeラーニング) を実施している。

5. IT 資産管理

高専機構では、IT 資産管理ソフトウェア (ASSETBASE) を使用しソフトウェアを含む情報資産の管理を行っており、ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェアライセンスの検査結果を毎年報告することになっている。今年度も、教職員の協力のもとに検査報告を完了することができた。また、令和5年度から新しく情報システム台帳の整備も高専機構から求められていた。引き続き情報システム台帳の更新を随時行い、本校における情報資産の適切な管理に努めていきたい。

評 価 委 員 会

評価委員会委員長 奥村 昌司

1. 自己点検・評価の実施

令和3年度から学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価として、認証評価機関が定める高等専門学校評価基準に基づき作成した点検項目について自己点検・評価を実施している。点検の結果、対応が必要な事項については対応を行った。また結果を本校ホームページにて「自己点検評価書」として公表している。今後これらの点検項目について定期的に自己点検・評価を行うとともに、改善点が挙げられた場合には改善状況を確認する。

2. 外部評価委員会の開催

本校の外部評価委員会は、令和4年度より実施方法を改め、本校の自己点検を外部有識者に評価していただくことを目的として実施している。

本校の自己点検は認証評価の基準に合わせて実施しており、自己点検の基準1～10を外部評価の観点①～⑥として整理している。毎年、外部評価の観点から選択して外部評価を実施し、数年ですべての観点的評価を実施する計画となっている。本年度は「外部評価の観点④学習環境及び学生支援、修学支援、学寮運営」について外部評価いただいた。

令和5年度の外部評価委員会委員は下記の学外有識者の皆様に就任していただいた。

長岡技術科学大学	学長	鎌土 重晴
和歌山工業高等専門学校	校長	井上 示恩
株式会社日進製作所	人事部長	室田 真司
舞鶴市中学校長会	会長	福本 浩介
舞鶴市政策推進部	部長	有吉 央顕
(企画政策課主幹 亀井亮介氏代理出席)		
京都新聞社舞鶴支局	支局長	高橋 晴久
舞鶴工業高等専門学校後援会	会長	藤田 美有紀

令和5年11月24日(金)に本校で対面実施した。議題は以下の4項目で、学校長ならびに本校の各担当教員から状況説明を行った。

- ① 高専の概要と舞鶴高専について (林 康裕 校長)
- ② 検討課題の状況及び舞鶴高専の自己点検について (奥村昌司 評価委員会委員長)
- ③ 観点「③学習環境及び学生支援、修学支援、学寮運営」について (加登文学 教務主事, 山田 耕一郎 学生主事, 児玉圭司 寮務主事)

発表と質疑応答ののちに、評価シートに基づいて、外部評価委員の皆さまに評価いただいた。評価の結果は本校ホームページに掲載される予定である。

3. 数理・データサイエンス・AI教育プログラムにかかわる自己点検評価について

本校では、令和4年度以降に準学士課程第1学年に入学するすべての学生に対し、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施している。そのための自己点検評価をおこない、ホームページに公開した。

広 報 委 員 会

広報委員会副委員長 片山 英昭

1. 広報委員会の活動概要

広報委員会は、校長、総務担当副校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、学術情報センター長、ホームページ部会長、入試広報部会長、事務部長、総務課長、学生課長で構成されている。本委員会では、委員長を校長、副委員長を総務担当副校長が務める。

学術情報センター運営委員会が「学校概要」、「学校だより」、「年報」の刊行物を、学術情報センター運営委員会ホームページ部会が本校ホームページを用いた広報活動を、入試委員会入試広報部会が志願者数確保に向けて「学校案内」などを用いた広報活動を、所掌している。委員会では、各委員会・部会の方角性を確認するとともに、本校の広報活動に関して協議する。

2. 広報委員会の活動報告

本校の広報活動に関して協議すべき重要事項がなかったため、各委員会・部会における広報に関する報告を行う。活動の詳細については、各委員会・部会報告を参照して頂きたい。

情報科学センター運営委員会

今年度当初に予定していた刊行物（学校概要、学校だより（春号と冬号）、年報）が滞りなく発刊された。

ホームページ部会

卒業した学生が記載されていたホームページの写真が在校生の写真に更新された。また存在場所が分かりにくかった学校公式 Youtube のリンクをトップページに作成するなどの改善が行われた。

入試広報部会

「学校案内」、「女子中学生向け学校紹介リーフレット」など入学者確保に向けた刊行物が例年どおりに発行された。また学生による学校紹介動画の本校ホームページへの掲載などが行われ、本校紹介動画が充実した。また学校公式InstagramとXを開設し、学校の情報発信が積極的に行われることとなった。

進路指導委員会

進路指導委員会 委員長	片山 英昭
副委員長 (就職)	高木 太郎
副委員長 (進学)	毛利 聡

1. 本年度の活動報告

1.1 主たる委員会報告事項、協議事項

○第1回進路指導委員会 (令和5年3月30日)

- (1) 今年度の実施体制と方針確認
- (2) 昨年度の報告
- (3) 早期書類発送対応について
- (4) インターンシップにむけて

○第2回進路指導委員会 (令和5年7月6日)

- (1) 進路活動状況
- (2) 予算計画
- (3) 合同学校説明会・キャリアセミナーの開催方法について

○第3回進路指導委員会 (令和5年9月22日)

- (1) 進路活動状況
- (2) 企業面談対応について
- (3) 求人企業数の分析
- (4) 合同学校説明会・キャリアセミナーについて

○第4回進路指導委員会 (令和5年11月21日)

- (1) 進路活動振り返り
- (2) 求人票の学内取り扱いについて
- (3) 外部団体による就職セミナーについて

1.2 進路ガイダンス

今年度の進路ガイダンスの実績を表1に示す。今年度も、これまでの実績をもとに、年度当初に必要なタイミングを検討し、高木副委員長が中心となり、年間計画に従ってガイダンスを実施した。今年度は、12月に1年生に対してガイダンスを実施し、進路に対する意識付けができたことは大きいと考えている。

1.3 合同学校説明会とキャリアセミナー

12月2日(土)に合同学校説明会を開催した。15校(3校は資料のみ)の大学・大学院大学に本校専攻科を加えて実施した。参加学生数は132名、23名の保護者の参加であった。外部団体主催の合同学校説明会の方が本校より参加大学数が多いことなどから、外部団体主催の合同学校説明会に参加する方が利点が多いと判断し、来年度以降は本校では説明会を実施しない予定である。

キャリアセミナーについては、12月16日(土)、17日(日)の2日間で開催した。今年度は、外部団体主催の土木・建築業界セミナーが16日に開催、および舞鶴市内企業などの参加が追加となったため、出展企業の選定およびブース配置において高木副委員長には例年以上の負荷となった。17日に51ブース、18日は機電系のみで38ブースを設営した。参加学生数は、約300名であった。進路指導委員会が対応できる規模として、適切であったと考えている。

1.4 進路指導委員の派遣

- ◇ 6月15日：令和4年度工業団地立地企業と地元高校・大学等懇談会について
(京都府商工労働観光部産業立地課)：福知山企業交流プラザ
- ◇ 10月16日：北播磨地域の企業と大学との就職情報交換会
(兵庫県北播磨県民局県民交流室長)：オンライン

表1 進路ガイダンス

開催日	対 象	備 考
4月18日	1年生	新入生合宿研修における講話に代えて 「進路指導の現場から伝えておきたいこと」
5月10日	4年生	今後のスケジュールの説明・就職と進学について
5月11日	3年生	情報収集の大切さ・就職と進学の違いについて
6月 5日	4年生	履歴書作成講座
7月 7日	4年生 (女子)	メイクアップ講座
7月13日	4年生	スーツの着こなし講座
8月 2日	4年生	インターンシップ説明会・夏季休暇の心構え
9月21日	3・4年生	就職活動報告会
9月26日	2～4年生	編入学試験報告会
11月 2日	3年生	進路活動状況分析・学内イベントにむけて
11月10日	4年生	進路活動状況分析・今後スケジュール・学内イベント
12月 4日	1年生	「都市と地方でのライフスタイルの違い」 (舞鶴市様と地域おこし協力隊様)
12月 5日	3年生	キャリアセミナーに向けて (服装・携行品・質問準備)
12月 6日	4年生	セミナー等での自己アピール方法
12月11日	2年生	各学科5年担任からの2年生向けアドバイス
12月19日	4年生	ガイドライン (進路アンケート・誓約書等) について
2月 8日	5年生	「働く前に知っておきたいストレスとの向き合い方」 (北京都ジョブパーク様)
2月 9日	4年生 (就職) 4年生 (進学)	就職活動の心得と (自分の価値を認識しよう) 受験計画の立て方

1.5 進学合宿

毛利副委員長、岡田教員、宝利教員、藤田教員が主となり、新型コロナウイルスの影響による春季休業の長期化に伴って一昨年度から編入学試験対策を主として春季休業期間中に合宿を実施してきた。今年度は、令和5年5月8日に新型コロナウイルスが「5類感染症」に移行したことに伴い、春季休業期間中に合宿を実施しないこととした。その代替として、放課後に勉強会を実施するなど、進学希望者がより勉強しやすい環境を検討することとなった。

2. 本年度の進路状況

令和6年春採用生 (本科5年生) に対しては、昨年度と比較して微増となる約900社からの求人票が届いた。令和元年春生に対する求人会社数とほぼ同じであるが、今年度の求人票のほとんどすべてが春に届いており、令和に入ってから求人は高い水準で維持できていると考えている。就職希望者と進学希望者の比率は4年連続してほぼ同じ割合 (進学約40%) であった。今年度は編入学試験の2次募集が例年より多くあり、進学を希望した学生は全員の進路が決定した。一方、就職希望学生については、一般企業選考後に公務員希望に変更した学生1名が未決定となった。

就職活動においては、WEBを利用した面談がある程度定着した。WEB面談用に専攻科棟の会議室を委員会として継続して借り受ける必要があると考える。来年度の就職活動よりインターシップの結果を用いた採用活動が開始となるため、インターシップの実施に大きな混乱が生じるのではと不安に感じていたが、特に問題となる事案は現時点では生じていない。就職活動の早期化が進んでいるため、3者面談の時期を検討する必要があるように感じている。

3. その他

令和5年3月1日に、本校卒業生の京都府内での再就職の支援を、本校と連携しながらサポートする窓口を北京都ジョブパーク・京都ジョブパークに開設した。今年度は1件相談案件があり、ジョブパークと連携してサポートを行った。残念ながら再就職には至らなかったが、開設後の早い時期で流れを確認できたことは大きな成果と考えている。

学生相談室

学生相談室室長 岡田 浩嗣

1. 学生相談室スタッフ

本年度は、学生相談室長・岡田浩嗣（自然）のほか、牧野雅司（人文）、山根秀介（人文）、木村健二（自然）、喜友名朝也（自然）、谷川博哉（機械）、村上信太郎（機械）、井上泰仁（電気）、石川一平（制御）、毛利聡（建設）、今村友里子（建設）、下元利之（学生課長）、田中智也（学生支援係長）、清水智苗美（看護師）、黒田友基（カウンセラー[精神科医]）、中川亜希（カウンセラー[臨床心理士]）、坂口なぎさ（カウンセラー[臨床心理士]）の体制で相談室を運営した。

2. 相談体制・相談件数

昨年度に引きつづき今年度も、臨床心理士のカウンセラーには週4日、精神科医のカウンセラーには月1回お越しいただいた。教職員の室員による相談も随時受け付けているが、その大部分は清水看護師に担っていただいている。

本年度の相談件数はのべ505件、うち教職員への相談件数が220件、精神科医への相談件数が13件、臨床心理士への相談件数が272件であった

3. 「学校適応感尺度調査」の実施

今年度は、5月および12月の2度にわたり「学校適応感尺度調査」を実施し、学生が抱える悩みや問題の早期把握に努めた。「学校適応感尺度調査」の結果を踏まえて面談対象学生を選定し、担任・コース長または学生相談室員が面談を行った。面談を行った学生はのべ249名にのぼり、面談を経てカウンセラーへと繋いだ学生も複数存在する。

4. 教職員研修の実施ほか

本年度は、教職員を対象に以下の研修・講演を実施した。

- 4月3日（月） 担任による全学年対象担任面談に向けた研修（動画視聴）
「学生との信頼関係構築のために」
講師：濱中ミオ・本多佑（仙台高等専門学校カウンセラー）
- 8月1日（火） LGBT 研修会（男女共同参画室、学生相談室、修学支援室、FD・ICT部会 共催）
- 10月17日（火） いじめ防止に関する講演会（学生委員会、学生相談室、修学支援室 共催）
「いじめ防止について」
講師：後野文雄 特命教授
- 12月12日（火） 教職員インターンシップ（男女共同参画室）
「学生相談室の役割と主な業務」
講師：岡田浩嗣（本校 学生相談室長）

5. 学生向けの活動

通常の相談業務以外にも、学生のストレス軽減を図るため以下の事業に取り組んでいる。

- 通年 フリーWiFi 設置（安らげる場所の確保、於 図書館1階コモンスペース）
- 4月3日（月）～ 全学年対象担任・コース長面談
- 4月18日（火）・19日（水）「舞鶴高専 PEER ～出会いと回復のピアプログラム～」
（新入生合宿研修において学生委員会を支援）
- 5月 ピア・サポーター（専攻科生 TA）による「放課後教室（前期中間）」での補助
- 5月22日（月）「メンタルヘルス講演会（2年生対象）」
（中川カウンセラー[臨床心理士]）

- 7月13日(木) 学生相談室主催行事「学生相談室を見学してみませんか？」
(坂口カウンセラー[臨床心理士])
- 11月 ピア・サポーター(専攻科生TA)による「放課後教室(後期中間)」での補助
- 12月12日(火) 学生相談室主催行事「学生相談室 de 交流会」

6. 各種研究会・研修会・協議会への参加

学生相談に関する研鑽を積むため、また他校との学生相談に関する情報交換のため、下記に示す各種研究会、研修会、協議会に参加した([]内は参加者名)。

- 近畿学生相談研究会 第155回例会および定期総会 [岡田]
6月24日(土) 京都芸術大学 瓜生山キャンパス
- 公益財団法人日本学校保健会 特別セミナー
令和5年度「子供の健康とスマホ・ゲーム依存」講習会(オンデマンド開催) [岡田]
配信期間 7月3日(月)～9月29日(金)
- 第20回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修 [岡田]
8月24・25日(木・金) 一橋講堂中会議場 学術総合センター
- 日本学生支援機構 令和5年度 心の問題と成長支援ワークショップ [山根]
9月7・8日(木・金) 東京国際交流館 プラザ平成 国際交流会議場
- 令和5年度 舞鶴市学校保健会総会
紙面開催
- 令和5年度 近畿地区高専カウンセリング連絡協議会 [岡田・山根・清水・田中]
11月14日(火) オンライン会議
(事前提出の協議事項・承合事項に基づく情報共有, 主幹校: 大阪公立大高専)
- 京都府学校保健会 第66回京都府学校保健研究大会 [清水・田中]
11月30日(木) ガレリアかめおか

修学支援室

修学支援室室長 牧野 雅司

1. 支援室および支援委員会の体制

今年度の修学支援室は、室長の牧野雅司（人文）をはじめ、木村健二（自然・寮務主事補）、七森公碩（電気情報・学生主事補）、の教員2名、さらに特命教授・後野文雄（特別支援教育士スーパーバイザー）、特命助教・橋本茂の計5名で構成されている。

常勤教員の室員は、保護者・学生からの申し出があった際に、担任とチームを組んで、対応や合理的配慮に関する検討・調整をコーディネートする役割を負う。後野特命教授は、保護者・学生や担任からの個別相談に応じていただくほか、個別の事案について専門的知見をもとにご助言をいただいている。橋本特命助教には、中学校において通級指導教室などでの指導をなさっておられた経験を生かして、学生へのスキルトレーニングや定期的な面談を実施していただいている。

上部機関にあたる修学支援委員会は、修学支援室が検討した合理的配慮（または配慮が必要でない旨）に関する答申を踏まえ、本校としての意思決定を行う。

2. 活動実績

令和4年度の活動実績は、以下の通りである。

- ・ 修学支援室で対応した学生 9名
- ・ 後野特命教授による個別面談・助言等 延べ85件（保護者対応、学内協議・助言を含む）
- ・ 橋本特命助教による個別面談 対象学生 3名、延べ75回
- ・ 新規の合理的配慮 2件（スキルトレーニングの実施、試験時の配慮）

3. 学生対象講演会

4月18日（火） 1年生対象人権教育「いじめ防止について」
講師：後野文雄先生

4. 研修・発表等

《教職員対象》

5～7月 1・2年担任対象「気になる学生についての報告と対応について」
講師：後野文雄先生
※各教員個別に実施

《研修》

11月20日（月） 令和4年度福知山市教育支援委員会 特別支援教育中高連携交流会
（於・市民交流プラザふくちやま） [牧野]

入 試 広 報 部 会

入試広報部会部会長 丹下 裕

令和5年度も志願者の確保が本校の最重要課題となり、入試広報活動の充実が使命となった。学校全体の協力を得て、下記のような活動を行った。

1. 学校公開日

定常的な入試広報を行うため、令和5年度から新たに学校公開日(公開講座と学校見学会)を設定した。1年間を通して設定した学校公開日は33件であった。公開講座と学校見学会の参加人数を表1に示す。

表1 学校公開日の参加者数

イベント	生徒数	中学3年生	中学2年生	中学1年生	小学生・不明
公開講座	153	52	33	25	33
学校見学会	365	54	44	83	183

2. 舞鶴高専フェア

これまでにイベントを行ったことがない大阪北部地域で、小規模なイベントを立命館大阪いばらきキャンパスで実施した。参加人数を表2に示す。

表2 舞鶴高フェアの参加者人数

開催日	生徒
R5.6.11(日)	53

3. オープンキャンパス

対面・体験型のオープンキャンパスを実施した。前年度との変更点は以下の通りである。1) 1日の最大入場者数に制限を設けない。2) 体験授業の参加可能人数を1回40名とした(一部20名、30名のものもある)。3) 8月5日、6日は参加者に学寮食堂で昼食を提供した。9月3日は参加者への昼食を提供しないが、学寮食堂を喫食可能場所として提供した。参加人数を表3に示す。

表3 オープンキャンパス参加人数

開催日	総来場者数	保護者数	生徒数	中学3年生			中学2年生			中学1年生			高校生・小学生		
				全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
R5.8.5(土)	297	181	116	84	71	13	19	14	5	10	10	0	3	2	1
R5.8.6(日)	392	251	141	95	80	15	31	26	5	13	12	1	2	1	1
R5.9.3(日)	207	125	82	54	38	16	17	14	3	7	5	2	4	2	2
計	896	557	339	233	189	44	67	54	13	30	27	3	9	5	4

4. 中学校訪問

近年に入学者・受験者があった学校を重点に訪問を行った。訪問地域と校数は、舞鶴・京丹後・綾部・宮津・福知山・京都市・亀岡・滋賀・三田・川西の合計206校で、5月以降順次訪問した。

5. 中学校主催学校説明会

個別の中学校から合計21件の学校紹介の依頼を受け、説明会を行った。中学校説明会参加校名を表4に示す。

表4 中学校説明会参加校名

開催日	中学校
R5. 1. 10(火)	綾部市立豊里中学校
R5. 4. 18(火)	守山市立守山南中学校
R5. 4. 28(金)	小浜市立小浜第二中学校
R5. 5. 1(月)	舞鶴市立城北中学校
R5. 5. 9(火)	守山市立明富中学校
R5. 5. 10(水)	湖南市立甲西北中学校
R5. 5. 10(水)	舞鶴市立白糸中学校
R5. 5. 11(木)	京丹後市立大宮中学校
R5. 5. 12(金)	小浜市立小浜中学校
R5. 5. 15(月)	若狭町立上中中学校
R5. 5. 16(火)	おおい町立大井中学校
R5. 5. 19(金)	京都市立西京極中学校
R5. 5. 26(金)	高浜町立内浦小中学校
R5. 5. 30(火)	高浜町立高浜中学校
R5. 5. 30(火)	舞鶴市立城南中学校
R5. 5. 30(火)	おおい町立名田庄中学校
R5. 6. 13(火)	舞鶴市立若浦中学校
R5. 8. 18(金)	養父市立八鹿青溪中学校
R5. 8. 31(木)	京丹後市立大宮中学校
R5. 8. 31(木)	高島市立湖西中学校
R5. 9. 5(火)	大津市立南郷中学校

6. あやべ理工系ことはじめ教室

本校と京都工芸繊維大学が主催し、京都府と綾部市の共催で北部産業創造センター（綾部市）にて開催した。綾部市および福知山市の小・中学校にチラシを配付し参加者を募った。参加人数を表5に示す。

表5 参加人数

開催日	講座名	参加対象	生徒 (児童)
R5. 5. 28 (日)	長さの測定～ノギスの使い方と木製ノギスの製作(本校)	中学生 小5・6	26
	建築の模型を作ろう (本校)		
R5. 7. 23 (日)	水面のアート～マーブル染めにトライ！～ (工繊大)	中学生 小5・6	24
	太陽電池で遊ぼう！ (本校)		
	紙コップ工作 (本校)	小1～4	9
R5. 8. 20 (日)	ガラスと金属がつくるアートー七宝焼きを作ってみよう！ (工繊大)	中学生 小5・6	28
	ラジオを作って鳴らそう (本校)		
	紙コップ工作 (本校)	小1～4	8

7. 入試説明会

9～11月にかけて本校を始め、表6のような地域で中学生、保護者、中学教員、塾講師向け入試説明会を行った。

表6 入試説明会参加人数

開催日	場所	回数	生徒	教員	保護者
R5. 9. 17 (日)	京都大学吉田キャンパス	2	31	-	41
R5. 10. 5 (木)	本校(教員対象)	1	-	14	-
R5. 10. 8 (日)	本校	1	16	-	20
R5. 10. 12 (木)	茨木市市民総合センター(教員対象)	1	-	4	-
	茨木市市民総合センター(生徒・保護者対象)	1	6	-	6
R5. 10. 13 (金)	三田市総合文化センター(教員対象)	1	-	11	-
	三田市総合文化センター(生徒・保護者対象)	1	4	-	4
R5. 10. 20 (金)	キャンパスプラザ京都(塾講師対象)	1	-	15	-
	キャンパスプラザ京都(教員対象)	1	-	9	-
	キャンパスプラザ京都(生徒・保護者対象)	1	8	-	8
R5. 10. 25 (水)	大津市ふれあいプラザ(教員対象)	1	-	6	-
	大津市ふれあいプラザ(生徒・保護者対象)	1	12	-	13
R5. 11. 3 (金祝)	本校	2	31	-	44
R5. 11. 4 (土)	本校	2	24	-	36
R5. 11. 26 (日)	本校	2	8	-	11

8. その他の入試広報イベント

その他の入試広報部会主催の入試広報イベントについて、表7に示す。

表7 その他のイベント

開催日	イベント	場所	生徒 (教員)	保護者
R5. 6. 9 (金)	中学校教員向け授業見学・学校説明会 および出身中学校連絡会	本校	28	-
R5. 6. 23 (金)				
R5. 6. 29 (木)	校外学習(舞鶴市立若浦中学校3年生)	本校	40	-
R5. 7. 16 (日)	KOSEN FES. 2022 大阪 (国公立高専合同学校説明会)	大阪梅田	-	-
R5. 10. 8 (日)	女子カフェトーク	本校	20	29
R5. 11. 3 (金祝)	高専受験体験談(高専祭)	本校	-	-
R5. 11. 3 (金祝)	在校生との交流会(高専祭)	本校	22	31
R5. 11. 4 (土)	高専受験体験談(高専祭)	本校	-	-
R5. 11. 4 (土)	在校生との交流会(高専祭)	本校	33	14

9. 地域広報誌への学校紹介

福知山広報誌「ラサンカ」2022年11月号から2023年10月号まで1年間無料で学校紹介を行うことになり、学校や学科紹介、イベント情報などを掲載した。

10. 学校代表SNSの作成

効果的な学校広報・宣伝活動を行うために、学校代表SNS(X, インスタ)を作成した。

留 学 生 委 員 会

留学生委員会委員長 加登 文学

1. 在籍状況

令和5年度は、国費外国人留学生3名、マレーシア政府派遣留学生1名の計3名の留学生在籍している。所属学科、学年等を表1に示す。

表1 令和5年度の留学生

令和5年4月現在

国籍	所属学科・学年	入学年度	備考
モンゴル	電気情報工学科5年	R3	国費外国人留学生
マレーシア	建設システム工学科5年	R3	マレーシア政府派遣留学生
モンゴル	電気情報工学科4年	R4	国費外国人留学生
カンボジア	建設システム工学科3年	R5	国費外国人留学生
ラオス	電気電子工学コース1年	R5	私費留学生(専攻科)

2. 留学生関連行事

2.1 留学生交流会

留学生交流会を以下の通り実施した。

実施日：令和6年1月16日(火)

場所：視聴覚教室

参加者：5名の留学生、チューター、学生会・寮生会・留学生と親交のあるクラスメート、留学生委員会を中心とした教職員等合わせて40数名

交流会では、校長先生の挨拶に始まり、留学生の自己紹介とプロジェクターを使用した母国の紹介を行った。参加者全員で歓談した後、学生会長、寮生会長、チューター、担任教員からそれぞれの留学生との思い出や心のこもったスピーチが届けられた。今年度卒業予定の留学生が挨拶した後、留学生委員会委員長の教務主事の閉会の言葉で交流会が終了した。

留学生のクラスメートや学生会、寮生会の学生が参加し、心暖まる言葉や今まで知らなかった新しいエピソード等が披露され、留学生はもちろん、その他の学生にとっても、楽しくかつ意義のある交流の場となった。また、本校学生は留学生と共に学校生活を送ることで多文化に触れ、今までになかった考え方や発想などかけがえのない時間を得ることができた。



留学生の自己紹介と母国の紹介



集合写真

2.2 留学生の地域交流

今年度行った、地域との異文化交流は以下の通りである。

- (1) 本校主催「令和5年度ジュニアドクター育成塾・異文化交流」

令和5年8月19日(土)

参加者：留学生1名

3. 令和6年度の受入予定

令和6年度は、以下の留学生2名の受け入れが予定されている。

本科3年次編入学

電気情報工学科

国費外国人留学生1名（モンゴル）

電子制御工学科

国費外国人留学生1名（フィリピン）

教 育 改 善 委 員 会

教育改善委員会委員長 徳永 泰伸

教育改善委員会は、本校の継続的改善システムを円滑かつ効果的に機能させるための活動を行っている。具体的には、評価委員会でCHECKされた事項についてACTIONを行う役割であり、当委員会が必要と認めるときは、各学科・部門及び他の委員会に提議、付託または協力要請を行うことができる。今年度実施した事項は以下の通りである。

1. 令和3年度自己点検の改善状況の確認

第1回委員会（令和 5年3月29日開催）において、令和4年度に評価委員会が作成した令和3年度の自己点検に対する改善結果について確認を行った。その結果、不十分と思われる点については次年度に、各部署に改善を求める運びとなる。

2. 令和4年度自己点検の結果確認

上記委員会において、今年度に評価委員会が作成した令和4年度の自己点検の結果の確認作業を行った。改善が必要とされる点については、次年度に各部署に対応を求める運びとなる。

ホームページ部会

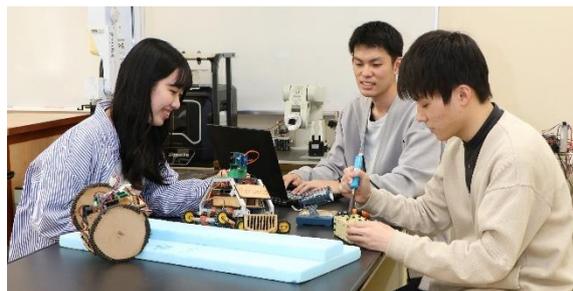
ホームページ部会部会長 室巻 孝郎

ホームページ部会は、学校ホームページ (<https://www.maizuru-ct.ac.jp/>) の保守・運用・更新を中心に活動している。部会長の他、11名の委員から構成されている。以下に、本年度の活動について報告する。

1. ホームページの更新

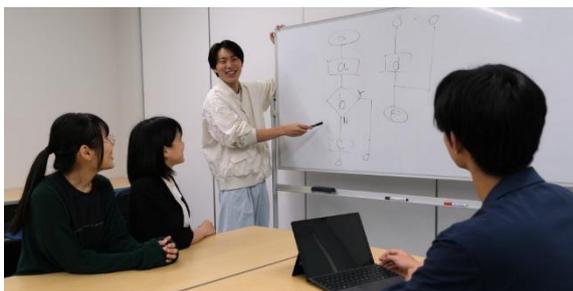
① トップページの画像更新

令和6年1月にトップページ画像4枚のうち3枚を更新した。右下の画像は従来のものであるが、それ以外の3枚が新しく更新された画像である。約3年ぶりの画像更新であったが、今後は定期的にトップページ画像を更新する予定である。



② 学科ページの画像更新

令和5年7月に機械工学科・電気情報工学科・電子制御工学科・建設システム工学科の紹介ページの画像を更新した。以下の4枚は更新した各学科の画像である。一般科目および総合システム工学専攻の画像については、令和6年度以降の更新を予定している。



③ 学校公式SNSへのリンクアイコンの追加

令和5年11月に学校公式SNS（X[旧Twitter]およびInstagram）の運用が始まったことを受けて、12月にリンクアイコンを追加した。令和6年3月時点で、YouTube、X、Instagramのリンクアイコンを設置している。



④ 地域・企業連携のメニュー項目変更

研究設備・機器の共用促進に向けたガイドラインに係る高専機構の共通方針が示されたことを受けて、研究設備・機器の一覧と利用方法について公開することになった。令和6年2月に、『地域・企業連携』→「受託試験」のページを改装し、「受託試験/研究設備・機器の共用」に更新した。



2. YouTube視聴回数

舞鶴高専YouTube公式チャンネルで公開している動画について、令和5年2月時点の視聴回数上位作品を紹介する。なお、タイトルに【学生生活】と付いている動画は、授業などの取組を通して学生が制作した動画である。

動画のタイトル	動画公開日	視聴回数
女子高専生の「おはよう」から「おやすみ」まで (高専女子フォーラム in 関西 2021 発表動画)	令和4年 1月	9943
舞鶴高専紹介 (4学科編)	令和4年 1月	3121
【学生制作】5年間の学生生活	令和5年10月	2264
ドローンから見る舞鶴高専	令和4年 1月	1768
舞鶴高専クラブ活動ニュース Vol.6 剣道部	令和5年10月	1540
【学生制作】現役舞鶴高専生による全力宣伝	令和5年10月	1366
舞鶴高専 建設システム工学科 学科紹介	令和4年 1月	1161
舞鶴高専 電気情報工学科 学科紹介	令和4年 1月	1062
舞鶴高専 電子制御工学科 学科紹介	令和4年 1月	874
舞鶴高専クラブ活動ニュース Vol.2 女子バレーボール部	令和4年 3月	867
舞鶴高専 機械工学科 学科紹介	令和4年 1月	816
【学生制作】舞鶴高専のいいところとは？	令和5年10月	766
舞鶴高専クラブ活動ニュース Vol.3 デザコン部	令和4年 6月	745
舞鶴高専クラブ活動ニュース Vol.1 自動車部	令和4年 2月	739
舞鶴高専 人文科学部門 部門紹介	令和4年 1月	691

F D ・ I C T 部 会

FD・ICT部会部会長 徳永 泰伸

本部会は、教育改善委員会の下部組織として、主として教員の授業方法、教育指導等の改善に資する目的で、種々の取り組みを行った。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は表1のとおりである。

表1 FD・ICT部会構成員と役割分担

氏名	所属	主たる役割	氏名	所属	主たる役割
徳永 泰伸	建設システム	全体の連絡調整	中尾 尚史	建設システム	教育連絡会議
大内 真一郎	人文科学	教育連絡会議	下元 利之	学生課	学生課連絡調整
馬越 春樹	自然科学	ポータルサイト	増永 武夫	総務課	総務課連絡調整
小林 洋平	機械	FD・ICT講演会	芦田 康弘	総務課	全体事務の掌握、連絡調整
竹澤 智樹	電気情報	教育連絡会議	石井 貴弘	支援センター (協力)	授業アンケート 設定及び集計
西 佑介	電子制御	教育連絡会議			

1. 授業アンケートの結果分析

本部会では、教学IR室が実施した授業アンケートの集計結果を基に、結果分析を実施した。

平成28年度から、他教員のアンケート結果（自由記述等は除く）を含め、本校で開講されている全科目の結果を参考資料として全教員に開示している。平成31（令和元）年度からは、前年度の授業アンケートに各教員が記載した「課題分析」と「今後の改善策」に対して、それぞれ自己分析を行い、「前年度からの達成度に関する自己分析」を記載する項目を追加するとともに、「達成度の割合」を数値で記入している。

2. FD・ICT研修会

教職員の知識や技能の向上を目指し、今年度は、以下のとおり実施した。

日 付：令和5年8月1日

題 目：LGBT研修

※男女共同参画室、学生相談室、修学支援室、FD・ICT部会の共同開催

日 付：令和5年9月15日

題 目：PROGテスト報告会

※教務委員会との共同開催

3. 授業参観

参観期間を令和5年6月14日（水）～7月4日（火）の3週間として実施した。参観教員は参観後1週間以内にFormsから内容を報告し、報告された内容は報告者を匿名としたうえで、授業担当教員にフィードバックした。

4. 教育連絡会議

学科・部門、本科・専攻科の垣根を越えて、科目間の連携を密にし、教育改善に向けた検討を行うことを目的に、教員を4つのグループに分け、グループごとに以下のテーマについて討議を行った。実施期間は令和5年11月21日（火）～11月27日（月）である。

グループA：卒業生対象の三号再試について（原級留置率と質保証）

グループB：教育の質確保のための校務の効率化

グループC：定期試験・再試験の実施について

グループD：学生への接し方について

各グループの主査は部会構成員が担当し、討議後は主査による報告書を本部会で集約し、学内で共有した。

5. 授業公開

本校の授業を公開し、学内及び学外から選ばれた評価者及び学生達から評価を受け、また、互いに話し合うことによって、授業公開の担当教員のみならず、参加する多くの教員の参考とし、本校全体の教育方法の改善に繋げることを目的に、令和5年12月8日（金）～令和6年1月12日（金）の期間に実施した。各学科部門による実施内容は以下のとおりである。

日時	実施教員	授業科目	クラス	学内評価者
令和5年12月8日（金） 12時55分～14時25分	小林 洋平	計測工学	4M	○篠原 正浩 徳永 泰伸
令和5年12月11日（月） 8時50分～10時20分	森 健太郎	C 言語	2E	○片山 英昭 伊藤 稔
令和6年1月12日（金） 12時55分～14時25分	西 佑介	電気磁気学 II	4S	○若林 勇太 井上 泰仁
令和5年12月15日（金） 8時50分～10時20分	中尾 尚史	耐震工学	5C	○徳永 泰伸 内海 淳志
令和5年12月21日（木） 10時30分～12時00分	荻田 みどり	総合国語 IIB	3S	○田村 修一 喜友名 朝也
令和5年12月7日（木） 12時55分～14時25分	宝利 剛	物理 IB	1-3	○上杉 智子 徳永 泰伸 熊谷 大雅

※○印は主査を表す。

実施後、主査から提出された授業公開報告書をもとに、授業担当者から授業改善プラン報告書が本部会に提出された。また、主査から提出された授業公開報告書及び授業担当者から提出された授業改善プラン報告書を本部会で総合的に評価・検討し、評価・検討結果を教職員に通知した。

安全衛生委員会

安全衛生委員会委員長 事務部長 寒川 真光

本委員会は、教職員の安全管理及び衛生管理の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校安全衛生管理実施規程 第11条）に設置されており、教職員の安全衛生管理に関する重要な事項について調査、審議を行っている。今年度の委員会構成は以下のとおりである。

表1 令和4年度安全衛生委員会構成

職名	氏名	任期	備考
事務部長	寒川 真光		一号委員：委員長
医師	西村 正人		二号委員：産業医
総務課総務係長	中嶋 智範		三号委員：衛生管理者・副委員長
総務課長	増永 武夫		四号委員：安全管理者，五号委員
看護師	清水智苗美		六号委員
教授	藤田 憲司	R5. 4. 1～R6. 3. 31	七号委員：人文科学部門
准教授	室巻 孝郎	R5. 4. 1～R6. 3. 31	七号委員：機械工学科
准教授	西 佑介	R5. 4. 1～R6. 3. 31	七号委員：電子制御工学科
技術専門職員	石井 貴弘	R5. 4. 1～R6. 3. 31	七号委員：教育研究支援センター
総務課施設係長	岩見 遼平		オブザーバー
総務課総務係員	小野 萌夏		オブザーバー

1. 定期巡視の実施

委員（産業医，オブザーバーを除く）8名を4班に分け，例示されたチェックポイントを目安に，学内の定期巡視（毎週1回）を実施した。具体的には，学内をA～Eの5地区に分けて，各班が順に各地区を担当するように計画した。巡視結果は委員会事務局に報告され，定例委員会で審議された。

2. 定例委員会の開催

原則として，毎月1回定例の委員会を開催し，各班からの巡視結果について審議した。審議結果は，昨年度に引き続き，保留，連絡（調査），連絡（対策）の三つに分けて対応した。「連絡」と判断された事項については，該当部署または該当教職員に通知した。「保留」は学校としての対応が必要と判断した事項で，施設係を中心に検討していただいた。また，定例委員会では毎回，西村産業医より，本校における健康管理および健康の保持増進に関するコメントをいただいた。

3. 安全衛生環境の改善

定例委員会で審議された事項について，当該部署や事務部へ連絡・調整を行った。これにより，安全衛生環境が改善された。なお改善にあたっては，令和元年度から導入した巡視における安全衛生に関するリスクの定量化（リスクアセスメント）を継続して行い，高リスクと思われる事項から優先的に対策を実施した。

4. ストレスチェックの実施

本校教職員を対象にストレスチェックを実施し，約80%の教職員が受検した。西村産業医の協力を得て，本人申し出に基づく面接指導も行われた。

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ座長 加登 文学

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループは、危機管理委員会の下部組織として、緊急連絡／安否確認システムの管理・運用およびシステムを用いた訓練を継続的に行っている。今年度の本ワーキンググループの構成員を表1に示す。

表1 ワーキンググループ構成員

加登文学	教務主事	伊藤稔	学術情報センター長
増永武夫	総務課長	下元利之	学生課長
		能勢嘉朗	教育研究支援センター

今年度は令和5年12月18日（月）に安否確認訓練を以下の手順で実施した。

- ① 令和5年12月18日（月）12：00、危機管理副委員長（教務主事）は危機管理委員長（校長）名で、システム運用者（学生課長および総務課長）に安否確認を行うよう指示する。
- ② システム運用者は運用管理者（学生課課長補佐および総務課課長補佐）に本システムを利用して、教職員及び学生に対し安否確認を行うよう指示する。
- ③ 安否確認のメールは、教職員については校務メールアドレス及び本システムに登録した携帯メールアドレス、学生については学生用Gmailアドレス及び本システムに登録した携帯メールアドレスの両方に届く。安否確認のメールを受信した教職員及び学生は、受信したメールどちらか一方から安否を回答する。
- ④ 同日17：00以降、情報科学センターで安否確認情報を集計し緊急連絡／安否確認システムWGに報告する。
- ⑤ 総務課長は、教職員と学生の安否確認情報を危機管理委員会に報告する。
- ⑥ 総務課長は、危機管理委員長名で、安否確認訓練が終了したこと全教職員に連絡し、安否確認情報の集計結果（17：00時点）を共有する。なお、メール以外の方法による更なる安否確認は今回行わない。
- ⑦ 令和5年12月19日（火）10：00以降、情報科学センターで最終的な安否確認情報を集計し、緊急連絡／安否確認システムWGに報告する。

なお、安否確認メールの送信内容は以下の通りである。

こちらは舞鶴高専危機管理委員会です。
 地震発生時の安否確認訓練のため、本メールを送信しています。
 質問1は自分の状況、質問2は自分の居場所を回答してください。
 それぞれ1文字を返信メールの本文1行目に入力・送信してください。（返信例：あ）
 なお、本メールタイトル内の[英数字]は管理番号ですので、返信時、タイトル（「Re:」を含む）を絶対に編集・削除しないでください。
 質問1 自分の状況 あ. 本人無事 か. 本人怪我
 質問2 自分の居場所 さ. 学内 た. 学寮 な. 自宅 は. その他
 質問1で「か.」を選んだ人は怪我の状況を、質問2で「は.」を選んだ人は自分の居場所を本文2行目以降に入力してください。

表2～4に安否確認の返信率を示す。

表2 安否確認の返信率（学生）
(a)令和5年度

令和5年12月18日17時00分		令和5年12月19日10時00分	
本科1年	89.0%	本科1年	91.5%
本科2年	80.5%	本科2年	83.5%
本科3年	77.5%	本科3年	80.4%
本科4年	74.1%	本科4年	79.7%
本科5年	79.9%	本科5年	86.6%
専攻科	81.8%	専攻科	87.9%
学生全体	80.4%	学生全体	84.6%

(b)令和4年度

令和4年10月3日17時00分		令和4年10月4日10時00分	
本科1年	80.0%	本科1年	85.9%
本科2年	73.2%	本科2年	87.3%
本科3年	77.1%	本科3年	87.9%
本科4年	83.2%	本科4年	87.0%
本科5年	67.9%	本科5年	76.4%
専攻科	94.6%	専攻科	94.6%
学生全体	76.7%	学生全体	85.5%

表3 安否確認の返信率（教職員）
(a)令和5年度

令和5年12月18日17時00分		令和5年12月19日10時00分	
教員	87.0%	教員	90.7%
事務職員	69.4%	事務職員	73.6%
教育研究支援センター職員	100.0%	教育研究支援センター職員	100.0%
非常勤講師	55.0%	非常勤講師	60.0%
教職員全体	75.9%	教職員全体	79.7%

(b)令和4年度

令和4年10月3日17時00分		令和4年10月4日10時00分	
教員	87.9%	教員	91.4%
事務職員	71.0%	事務職員	72.5%
教育研究支援センター職員	91.7%	教育研究支援センター職員	91.7%
非常勤講師	39.1%	非常勤講師	43.5%
教職員全体	74.1%	教職員全体	76.5%

表4 安否確認の返信率の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生全体	87.3%	91.4%	84.4%	85.5%	84.6%
教職員全体	66.5%	81.2%	76.5%	76.5%	79.7%
全体	83.9%	89.7%	83.0%	84.0%	83.8%

令和5年度の返信率について、令和4年度と比較すると、学生ではほとんど変化していないが、教職員では若干の増加がみられる

学生の返信率はクラスごとのばらつきが大きく、100%の返信率のクラスがある一方で、50%に満たないクラスもあった。ただし、1年生ではどのクラスも返信率が80%を超えており、安否確認訓練を通じ、多くの学生が返信の方法を体験することが出来たといえる。

教職員については、前年度と比べて全体としては改善が見られるものの、事務職員においては4人に1人が返信していない状況であり、さらなる改善が必要である。また、非常勤講師については返信率が前年度に比べて大きく改善したとはいえ、未だ60%と他に比べて低く、周知の方法を考える必要がある。

※令和6年能登半島地震に対する対応

令和6年1月1日16時10分に最大震度7を観測した令和6年能登半島地震が発生した。舞鶴市内の震度計では震度2あるいは震度3の揺れであった。冬休み中であることから、何らかの影響があるものみに回答を求めるという方針で安否確認を実施した。元旦であり、危機管理委員会の開催は難しい状況であったため、校長、副校長、三主事のメールでの協議の後、下記内容の一斉メールを翌日(1月2日)に配信した。

舞鶴高専危機管理委員会です。

令和6年1月1日に、令和6年能登半島地震が発生しました。冬季休業中に被災された方、負傷された方、授業開始時に学寮へ戻れそうにないなど何らかの影響が生じた方は、状況をご連絡ください。また、被災された本校学生の情報を知っている場合はその情報をお知らせください。

あ: 影響なし

か: 影響あり

WEB 回答 URL(ケータイ用とスマホ用があります)

(URL 省略)

全学生806名のうち、5名が影響あり、676名が影響なしの回答であった。影響ありの5名については個別に連絡を取り、問題ないことを確認した。また、非常勤講師を含む全教職員163名のうち、129名から影響なしの回答があった。全員に対して回答を求めるものではなかったが、返信率は学生で83.9%、教職員で79.1%と、訓練結果とほぼ等しいものであった。このことから、訓練において返信率を向上させることが、実際の発災時の早期の安否確認につながるといえる。

男女共同参画室

男女共同参画室長 上杉 智子
男女共同参画副室長 村上 信太郎

1. 男女共同参画室の概要

男女共同参画室は、高専機構男女共同参画行動計画に基づき、男女共同参画を推進することを目的に、令和元年度より新設された組織です。教育・研究・就業活動全般を通じた男女共同参画の推進と意識啓発を行うことを主な目的としています。また、令和元年度より活動を行っている、本校の女子学生グループ「うろうろ」の後援・活動支援も行っています。

2. 令和5年度の活動

2.1 男女共同参画室運営会議の開催

- 第1回男女共同参画室運営会議（令和5年4月11日）
 - (1) 実施体制 (2) 基本方針 (3) 昨年度の活動について
 - (4) 令和4年度第3ブロック男女共同参画推進協議会報告 (5) 令和5年度の取り組み予定
 - (6) 2023年度高専女子フォーラム in 関西について (7) 令和5年度活動計画
- 第2回男女共同参画室運営会議（令和5年7月18日）
 - (1) 高専女子フォーラム in 関西について (2) 教職員対象のLGBT研修について
 - (3) 今年度予算案について (4) 女子学生グループ「うろうろ」の活動について
 - (5) 性被害・性加害防止講演会の実施（1年女子学生向け講演会）について
 - (6) 身だしなみ・メイクアップ講座（進路指導委員会との共催）について
 - (7) 教職員のインターンシップについて
 - (8) 令和6年度以降の高専女子フォーラム in 関西の継続について
- 第3回男女共同参画室運営会議（令和5年10月20日）
 - (1) 高専女子フォーラム in 関西報告 (2) 教職員対象LGBT研修報告
 - (3) 女子学生グループ「うろうろ」の活動について
 - (4) 教職員のインターンシップについて
 - (5) ダイバーシティネットワーク会議について (6) その他（GCON2023について）

2.2 1年生を対象とした講演会の実施

令和5年4月24日（月）、学生委員会との共催により、1年生を対象とした性被害・性加害防止講演会を開催しました。当日は、京都府警察本部生活安全部少年課少年サポートセンターの高橋様、山下様を講師に迎え、山下様には第二合併教室で女子学生対象の講演を、高橋様には視聴覚教室で男子学生対象の講演を行って頂きました。講演では、実際に起きた性被害の事例を取り上げて、自分の身を守るための知識や、性犯罪の被害者や加害者にならないための具体的な対策法などを分かりやすく解説して頂きました。



2.3 LGBT研修の実施

令和5年8月1日（火）、視聴覚教室において、学生相談室、修学支援室、FD・ICT部会との共催により、新任教職員と、過去に受講していない教職員を対象としたLGBT研修を実施しました。研修では、認定特定非営利活動法人「ReBit」が無償配布を行っている動画の視聴と、グループワークを行いました。研修の際には、本校学生に関する情報共有も行いました。研修には教職員25名（教員14名、職員11名）が参加しました。

この研修は、全教職員に受講してもらうことを目指して令和3年度から開催していますが、8月1日の研修後の受講率は、教員が83%、職員が56%となっていたため、今回は、さらに本研修の終了後、研

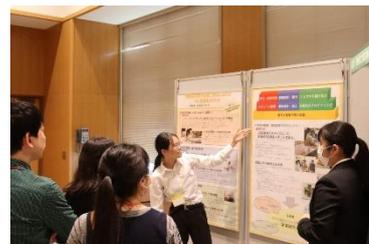


修に参加できなかった教職員を対象として、オンラインでの研修を実施しました。オンライン研修には12名の教職員（教員4名、職員8名）が参加し、受講率は教員91%、職員74%となりました。

2.4 高専女子フォーラム in 関西への参加

令和5年9月9日（土）、クリエイション・コア東大阪において、近畿地区の高等専門学校7校の主催による高専女子フォーラム in 関西が開催されました。今回は本校が代表幹事校を務めました。高専女子フォーラム in 関西は、女子学生のキャリア教育を主な目的として実施しており、女子学生に参加企業のダイバーシティ推進に関する取組例や、社会での女性技術者の活躍などを学んでもらうことと、女子学生が企業関係者や女子中学生とその保護者に向けて、研究紹介、学生生活紹介、高専教育紹介を行うことで、高専女子学生の実力を広く認識してもらうことを目的としています。

開催当日は、合計290名（出展企業64名、聴講企業13名、女子中学生32名、保護者44名、高専女子学生78名、高専教職員56名、メディア関係3名）が参加し、近畿7高専の女子学生29チームが発表を行いました。本校からは6チームの女子学生が参加し、女子中学生や企業の方を対象として、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、建設システム工学科のそれぞれの専門教育紹介、女子学生グループ「うろうろ」の活動紹介、寮生活紹介の6件のポスター発表を行いました。



2.5 教員職インターンシップの実施

令和5年12月11日（月）から12月13日（水）までの3日間にわたり、教員職体験のためのインターンシップを女性限定で実施しました。大学院博士後期課程在学中の女性または博士号を持つ社会人女性を対象として参加者の募集を行い、1名の社会人インターンシップ生を受け入れました。インターンシップでは、学寮・課外活動見学、授業・卒業研究の見学、管理職との懇談、女性教職員との懇談や、2年生対象のキャリアガイダンス見学などを体験してもらいました。

2.6 学内設備の改善

学生と教職員が快適に過ごすための設備の見直しとして、男女共同参画室の予算を利用して、毎年、学内設備の改善を行っています。今年度は、教職員からの要望により、校舎内の男子トイレの個室への荷物・コート掛けの設置と、本館2階の給湯器の更新を行いました。

2.7 メイクアップ講座の開催

進路指導委員会との共催により、女子学生支援の一環として、令和5年7月7日（金）にメイクアップ講座を行いました。当日はメディア総研株式会社から講師をお迎えし、就職活動などにふさわしいメイクアップの方法を講義していただき、参加学生達は実際にメイクを行いながら受講しました。



2.8 女子学生グループ「うろうろ」の活動支援

女子学生グループ「うろうろ」は、昨年度までに引き続き、入試広報に関連したリーフレット作成への協力、小中学生対象の公開講座（6/25, 7/8）での工作指導の実施、オークマ株式会社へのOG訪問（3/19）などの活動を行い、男女共同参画室がこれらの活動の支援を行いました。

3. 男女共同参画室が関わったその他の行事・会議等

- 令和5年 4/28(金), 7/5(水), 10/30(月), 令和6年1/24(水)
第1回～第4回 高専女子フォーラム in 関西 実行委員会（オンライン開催）
- 令和5年 10/4(水) 全国ダイバーシティネットワーク 近畿ブロック会議（オンライン開催）
- 令和5年 10/8(日) 高専女子カフェトーク
- 令和6年 3/13(水) 第3ブロック男女共同参画推進協議会（会場：鳥羽商船高専）

入学前ICT教育ワーキンググループ

入学前ICT教育WG座長 小島 広孝

1. 入学前ICT教育について

令和4年度本科入学試験から、特別選抜に地域枠が新設されたことに伴い、入学予定者を対象とした入学前ICT教育を実施しています。入学前ICTは入学予定者が「高専での学習に向けた準備」と「入学後に利用するICTに慣れる」を目的として、入学前ICT授業として実施しています。今年度は令和6年度新入生を対象として実施しました。

2. 入学前ICT教育WGの委員

氏名	所属
小島 広孝	自然科学部門
牧野 雅司	人文科学部門
喜友名 朝也	自然科学部門
村上 信太郎	機械工学科
船木 英岳	電気情報工学科
石川 一平	電子制御工学科
中尾 尚史	建設システム工学科

3. 入学前ICT授業の実施

入学前ICT授業は新設されたMoodleを用いて、以下の内容を、Teamsを用いたリアルタイムライブ授業に参加した後に、オンデマンド動画視聴による課題に1週間程度の締め切りで取り組む形で実施しました。リアルタイムライブ授業では一方向の授業にならないよう、クイズやアンケート機能を活用しました。

- 第1回（1月17日（水））【校長祝辞，説明と諸注意など，理科教員によるクイズ（課題なし）】
- 第2回（1月24日（水））【機械工学科の教員による授業】
- 第3回（1月31日（水））【電気情報工学科の教員による授業】
- 第4回（2月7日（水））【電子制御工学科の教員による授業】
- 第5回（2月14日（水））【建設システム工学科の教員による授業】
- 第6回（2月21日（水））【人文科学部門（社会）の教員による授業（課題は英語科目）】
- 第7回（2月28日（水））【自然科学部門（数学）の教員による授業】
- 第8回（3月13日（水））【Teamsを利用して，各学科の在學生と交流（課題なし）】

合格が入学予定を意味する特別選抜合格者に対しては、令和6年1月11日（木）の合格発表後に、合格通知に入学前ICT授業の資料を同封して参加を求めました。特別選抜合格者112名全員が令和6年1月31日までにMoodleへの登録を行いました。

一般学力選抜の入学予定者に対しては、令和6年2月15日（木）の合格発表後に、合格通知に入学前ICT授業の資料を同封して第6回授業以降の参加を求めました。すでに実施された授業についても、Moodle上に掲載された資料や動画を閲覧し、締め切りを過ぎていても課題が提出できることを説明しました。一般学力選抜の入学予定者51名全員が令和6年3月13日までにMoodleへの登録を行いました。

令和6年3月3日（日）の入学説明会では在校生（学生会および寮生会）からのメッセージ動画が再生され、同日にMoodleでも公開されました。

令和6年3月13日（水）の在學生との交流会は Teamsを用いたリアルタイムミーティングで実施しました（在校生18名，学科教員3名，部門教員2名が参加）。入学予定者，在校生および学科教員，部門教員は学科別のブレイクアウトルームに分かれて交流し，一部の部門教員は遅れて参加した入学予定者らの誘導などを行いました。

Moodleで実施した受講生のアンケートにおいて、参加した入学予定者から好意的な回答が多く見られました。

施設マネジメント委員会

施設マネジメント委員会委員長 片山 英昭

1. 施設マネジメント委員会の概要

本委員会は、時勢により変わる施設利用状況に対し施設利用・利便性の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校施設マネジメント委員会規程 第3条）に設置されており、施設の活用状況の調査、各部門への施設アンケート、大型改修の計画を行っている。

2. 本年度の委員会活動

- 第1回施設マネジメント委員会（2023年4月25日）
 - (1) 昨年度引き継ぎ事項の確認
 - (2) 令和5年度の大型改修工事内容について
 - (3) 高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクトについて
 - (4) 各学科の面積保有状況の確認
 - (5) 概算要求の年次計画について
- 第2回施設マネジメント委員会（2023年7月3日）
 - (1) B310の移動予定、及び図書館3階マルチメディアスタジオ準備室の利用について
 - (2) 合宿倉庫に保管している高専祭用具の移動先について
 - (3) 令和6年度営繕要求「高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクト」について
- 第3回施設マネジメント委員会（2023年10月24日）
 - (1) 令和7年度施設整備の要求事項について
 - (2) 令和6年度営繕事業の要求事業について
 - (3) キャンパスマスタープランの作成について
- 第4回施設マネジメント委員会（2023年11月28日）
 - (1) 令和7年度施設整備費の要求事業について
 - ・ 学生昇降口・電子制御工学科棟改修について
 - ・ 学生寮食堂改修について
- 第5回施設マネジメント委員会（2024年3月13日）
 - (1) 次年度への引き継ぎ事項について

3. 活動結果

- 令和5年度大型改修

学生寮5号館（東）及びC棟（1階）の改修に伴い、校舎や学寮がきれいになった。C棟の改修では、窓が大きくなったことにより、実験設備などを見ることができるようになっただけでなく、廊下が明るくなった。
- キャンパスマスタープラン

機構本部の国立高専機構施設整備5か年計画および本校の現状を踏まえ、前回作成のキャンパスマスタープランの加筆・修正を行い、原案を作成した。
- 令和7年度大型改修

施設利用状況・施設老朽状況に基づき令和7年度大型改修計画が協議された。また学寮食堂については、寮生数に基づき改修を行うこととなった。
- 構内施設の施錠・解錠時期について

現在は守衛が巡回時に施錠を行っているが、将来的に建物出入口のオートロック化を推進することにより、構内の安全・安心を確保することとなった。
- B320とA324について

B320とA324を、活動部屋を持たない文化系部活の活動部屋、および学生利用の部屋として、次年度4月末までに整備することとなった。

教学 IR 室

教学 IR 室長 宝利 剛

本組織は、校長の下、本校における教育の質保証を目的とした教学マネジメントの推進に資する情報（IR データ）を学内外から収集、分析し、情報を必要とする部署に提供している。今年度の構成員と役割分担は表 1 のとおりである。

表1 教学IR室構成員と役割分担

氏名	所属	主たる役割	氏名	所属	主たる役割
宝利 剛	自然科学	全体の連絡・調整 RQに関わる資料	石井 貴弘	支援センター	授業アンケート
室巻 孝郎	機械	APに関わる資料	大和 健治	学生課	全体事務の掌握、 連絡調整
七森 公碩	電気情報	DPに関わる資料	金丸 亮太	学生課	全体事務の掌握、 連絡調整
井上 泰仁	電気情報	CPに関わる資料	中道 晶子	学生課	全体事務の掌握、 連絡調整

1. アセスメントプランに基づく資料の収集・分析およびアンケートの実施

1.1 資料の収集

今年度は、アセスメントプランに基づき収集・分析する資料の一覧を作成し、当該資料の収集・分析を行った。評価委員会がアセスメントプランに基づき3つのポリシーを評価するため、収集・分析された資料については評価委員会と共有した。

1.2 各種アンケートの実施

今年度は、新入生に対するアンケート（4月）、授業アンケート（9月（前期）・2月（後期））、学びの状況調査アンケート（9月）、学校評価アンケート（1月）、卒業・修了する学生へのアンケート（2月）を実施した。新入生に対するアンケートは、入学動機調査、学校イベント参加調査、AP 適合度合調査、入学前 ICT 教育満足度調査を同時に実施した。また、卒業・修了する学生へのアンケートは、DP に関する満足度調査と、学びの状況調査で実施している教育への満足度・達成度調査を同時に実施した。学校評価アンケートは3年ごとに実施しているもので、今年度は、H10～H11 に卒業した本科生、H20～H22、H26～H28 に卒業・修了した本科生・専攻科生、および、過去5年間（H30～R4）に卒業・修了した本科生・専攻科生の就職先・進学先を対象として実施した。

2. リサーチクエスチョン（RQ）に基づく資料の収集・分析

今年度初めて実施される RQ に基づくデータの収集・分析について、報告様式を作成した。

また、教務主事より1件の依頼を受け、データの収集・分析を行った。分析結果は、IR 報告書 No. 24001 として運営会議で報告し、学内に共有した。

舞鶴高専ジュニアドクター育成塾

実施主担当者 上杉 智子

1. ジュニアドクター育成塾について

ジュニアドクター育成塾は、科学技術振興機構（JST）が行う理系の次世代人材育成事業の一つで、理系の優れた能力を秘めた児童・生徒を発掘し、その能力を育てることを目的としています。本校は、平成31（令和元）年度より「多自然居住地域における理工系人材の発掘と世界に羽ばたく人材育成プログラム」という企画名でこの事業に採択され、5年間の取り組みを行ってきました。JSTによる支援期間の最終年度となる令和5年度は、地域の小中学生を対象として、科学技術との触れ合いや高度な研究課題への取り組みの機会を提供する活動を行いつつ、支援期間終了後の地域の人材育成に向けて、学内体制を整えました。

2. 実施組織

昨年度までに引き続き、学内の実施組織「ジュニアドクター育成塾推進会議」の構成員を中心として企画を行い、全学的なサポートのもとで取り組みを実施しました。

令和5年度 ジュニアドクター育成塾推進会議 構成員

役割名	担当構成員
実施責任者	校長
実施主担当者	上杉智子
実施担当者	宝利剛，谷川博哉，内海淳志，石川一平，加登文学
事務局	事務部長，総務課

3. 育成プログラム

育成プログラムは二段階に分かれています。毎年、受講生の応募を行い、応募者から約40名の受講生を選抜して、受講1年目に第一段階の育成プログラムを実施します。第一段階の取り組みを修了した受講生のうち、特に優秀な受講生を選抜して、受講2年目より第二段階プログラムを実施します。取り組み5年目となる今年度は、第一期生～第四期生に対する第二段階の育成プログラムと、新たに受け入れた第五期生に対する第一段階の育成プログラムを並行して行いました。

《第一段階育成プログラム》

令和5年度の受講生募集では75名の応募があり、41名の受講生を第五期生として選抜しました。この第五期生を対象に、理学・工学の様々な分野について学習するための取り組みを行い、成果発表会を実施しました。今年度は、全11回を全て対面講座で行いました。

(1) 基礎講座（6月4日，6月17日）

初回と第二回の講座では、入塾式を行った後、木製ノギスや分光器の作製などの簡単な工作を通じた、測定値の扱い・有効数字・物理量の測定についての学習や、プログラミングについて学習する基礎講座を実施しました。

(2) 総合的学習（9月9日，9月23日，10月28日）

様々な分野に関わる身近なテーマについて学ぶ総合的学習を、「防災」（自然災害・原子力防災）と「エネルギー」（エネルギーの変換・電気エネルギー）をテーマに、3回に分けて実施しました。



総合的学習（エネルギー）

(3) 異文化交流・研究者倫理（8月19日）

金山光一舞鶴高専名誉教授による研究者倫理についての講義の後、本校に在学中のラオスからの留学生と、名古屋大学大学院に在学中の韓国からの留学生による母国の紹介や、留学生との交流を行いました。また、研究発表のタイトルの決め方や発表資料の作成についての講義も行いました。



異文化交流

(4) 課題学習（7月1日・15日，10月7日・21日）

受講生が2つのコース（Aコース：設計，ロボット／Bコース：AI・IoT，建築）に分かれて行う課題解決型学習を、前半2回・後半2回の全4回行いました。



課題学習（設計）



課題学習（AI・IoT）



課題学習（ロボット）



課題学習（建築）

(5) 特別講義（10月28日）

株式会社キカガク会長 吉崎亮介さんによる招待講演「理系出身で会社を作ると得られたこと」を実施し、グループワークを交えながら、起業についての経験などを話して頂きました。招待講演の後は、成果発表用スライドの作成を行いました。招待講演には、昨年度までに第一段階を終えた修了生達も参加しました。招待講演の後は成果発表会の準備を行いました。



招待講演

(6) 成果発表会・修了式（12月3日）

本校の視聴覚教室において、第一段階での学習の成果発表会を開催し、第一段階受講生36名がスライドによる発表を行いました。成果発表後は第一段階教育プログラムの修了式を行い、発表を行った受講生達に修了証書を授与しました。



成果発表会



質疑応答



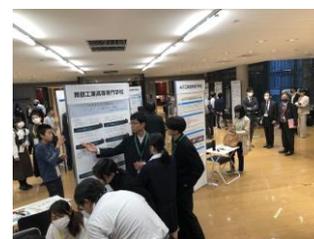
修了生

《第二段階育成プログラム》

令和5年度の第二段階受講生は、前年度から継続して参加する11名と、令和4年度の第一段階修了生の中から新たに選抜した12名の計23名に対し、9つの研究テーマで月2回を標準として、対面講座・オンライン講座の両方を取り入れて指導を行いました。

成果発表の機会としては、11月4日・5日に東京国際交流館プラザ平成で開催された、全国の実施機関から受講生が参加するサイエンスカンファレンス2023に1名の第二段階受講生が参加し、1日目に研究発表を行い、2日目は受講生交流会に参加しました。

また、令和6年3月24日には第二段階受講生の成果発表の場として、舞鶴市総合文化会館コンベンションホールで令和5年度研究フォーラムを開催し、令和5年度の第二段階受講生のうち20名が成果発表を行いました。



研究発表の様子
(サイエンスカンファレンス)

4. 本取り組みによる学生の教育

受講生のサポートを行う本校の学生達に対し、メンターの役割を担うためのスキルを育成することを目的として、コーチングスキルに関する研修を本校教員が6月8日に実施しました。また、昨年度までに引き続き、教育アドバイザーとして、元中学校教員の後野文雄先生、橋本茂先生をお迎えし、本校教員と共に学生メンターの指導をして頂きました。

5. 事業終了後に向けた学内体制

JSTによる支援期間終了後は、本校の4学科に対応する4分野に、理学系分野を加えた5つの分野についてコース制の公開講座を開講し、全コース合同で年1回の成果発表の場を設けることで、令和6年度以降も地域の児童生徒の育成を継続していく予定です。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

文部科学省が「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」として実施する「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において、舞鶴工業高等専門学校が申請代表校となった『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』が、中核拠点の取組みとして選定されました。

本事業は、舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センターが中心となり、建設技術者が働きながら学びを続けるための環境整備や、職業能力の向上とキャリア・アップに繋がる教育プログラムの構築等、社会人のための学び（リカレント教育システム）を設計するものです。文部科学省補助期間は、令和元年度から5カ年であり、産学+地域による連携体制として『REIM産学連携コンソーシアム』を設立し、インフラメンテナンス分野のリカレント教育を推進するための取組みを行っています。

本年度は5年計画の最終年度にあたり、①実務家教員育成研究プログラムを開発し、産学連携でリカレント教育プログラムの講師を育成する。②職務を離れることなく受講可能なリカレント教育プログラムを開発・実施する。③全国5カ所のリカレント教育拠点に育成した実務家教員を配置し、リカレント教育プログラムを全国展開する。を実施してきました。

また、これに加え、REIM事業期間の終了後も構築した人材育成システムを持続的に運営していくため、多くの方のご助力を得て一般財団法人高専インフラメンテナンス人材育成推進機構を設立することが出来ました。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

**少子高齢化・労働人口減少
社会基盤(インフラ)高齢化**

➡ **安全・機能確保対策の必要性大
維持管理・修繕等の需要が増大**

インフラ(橋梁)の現状

- 全国の橋梁ストックは約72万橋(国道3割、市町村道7割)
- このうち、建設後50年以上経過した橋梁が10年後には5割超
- 町の3割、村の6割で橋梁保全業務に携わる土木技術者不在

課題・問題

- 地方では高等教育を受けた技術者が非常に少ない
- 実務者のインフラメンテナンス分野の経験が乏しい
- 建設技術者のICTスキルが不十分で建設現場の生産性が低い

**Society5.0を牽引するインフラメンテナンス人材
を育成するためのリカレント教育が急務**

- 実務家教員育成研修プログラムを開発し、産学連携でリカレント教育プログラムの講師を育成
- 若手建設技術者を主な対象とし、職務を離れることなく受講可能なリカレント教育プログラムを開発・実施
- 全国5カ所のリカレント教育拠点に育成した実務家教員を配置し、リカレント教育プログラムを全国展開

→リカレント教育プログラム修了者、特に高専卒(准学士)の技術者について、修士課程への社会人入学を支援

連携高専 (リカレント教育拠点)

● 福井高専 ● 長岡高専
● 香川高専 ● 福島高専

● リカレント教育拠点の整備・運営
● 教育ノ研修プログラムの共同開発
● 実務家教員によるリカレント教育プログラムの実施

【連携機関マップ】
凡 例
● 連携高専
● 連携大学
● 国立高等機構
● 国立高専

全国の高専
▲ 連携高専
▲ 舞鶴高専 (中核拠点)

連携大学
放送大学

協力大学
長岡技術科学大学

教育コンテンツ
リカレント講座開設
修士課程
社会人入学
教育コンテンツ
講座受講者の推薦

教育プログラムの
共同開発
実務家教員の派遣
社会基盤メンテナンス教育センター
教育プログラムと (リカレント教育中核拠点)
eラーニング提供

- リカレント教育中核拠点の整備・運営
- 実務家教員育成研修プログラムの開発・実施
- リカレント教育プログラムの開発・実施
→ eラーニング+講習会(アクティブ・ラーニング)
- オンライン学修環境の管理・運営とeラーニングの提供
- リカレント教育プログラム修了者への技術資格認定
- 職業実践力育成プログラム(BP)の認定申請
- 学修履歴と指導履歴の記録・管理・証明

NEXCO 西日本 西日本高速道路株式会社
国土交通省 近畿地方整備局 企画部 近畿技術事務所
一般社団法人 近畿建設協会
JCCA 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 近畿支部
Japan Civil Engineering Consultants Association
J-BEC 一般財団法人 橋梁調査会 近畿支部
Japan Bridge Engineering Center

- 実務家教員研修プログラム受講者の派遣
- リカレント教育プログラム受講者の派遣
- 教育ノ研修プログラムの共同開発
- リカレント教育事業継続のための支援

**REIM産学連携
コンソーシアム**

+地域連携
京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会

外部評価
社会基盤メンテナンス
技術レベル検討委員会



学科・部門別教員一覧 (令和6年3月現在)

人文科学部門

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
藤田 憲司 (修士〔文学〕)	教授	・国際交流センター長 ・人文科学部門長 ・学級担任(1-4)	①総合英語ⅠB,ⅡA,ⅢB ②現代英語Ⅱ	英文学	①18世紀イギリス詩 ②批評理論
児玉 圭司 (修士〔法学〕)	教授	・寮務主事	①法学 ②現代社会 ③科学と社会 ④技術者倫理	法制史 (日本近代)	①行刑(監獄制度)史 ②刑事法・刑事政策史
牧野 雅司 (博士〔文学〕)	准教授	・修学支援室長 ・教務主事補 ・学級担任(2-2)	①歴史総合A ②公共A,B ③人文特論ⅢA,ⅢB ④防災リテラシー	①日本近代史 ②対外関係史	①幕末維新期の日朝関係 ②地域史料の保存と活用
山根 秀介 (博士〔文学〕)	准教授	・寮務主事補	①総合英語ⅢA,ⅢB ②英語演習Ⅰ ③人間論 ④哲学 ⑤人文特論ⅣA,ⅣB	宗教哲学	①ウィリアム・ジェイムズ ②シャルル・ルヌヴィエ
荻田 みどり (博士〔文学〕)	准教授	・寮務主事補	①古典A,B ②総合国語ⅡA,ⅡB ③人文特論ⅡA,ⅡB ④日本文化論	中古文学 (平安時代の文学)	源氏物語の食事描写
大内 真一郎 (修士〔文学〕)	講師	・学級担任(1-2)	①総合英語ⅢA ②英会話A ③総合英語ⅡB	アメリカ小説	①リチャード・パワーズ ②物語論 (ナラトロジー)
平尾 恵美 (修士〔文学〕)	講師			①英語学 ②言語学	①insubordination ②言いさし文 ③感情表出表現
岡下 朋世 (学士〔人文科学〕)	助教			言語学 (音声学)	①言語のリズム ②英語教育

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
田村 修一 (博士〔文学〕)	嘱託教授		①現代文A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB ③日本語A, B, C, D, E, F	日本近代文学	①芥川龍之介 ②阿部知二 ③日本近代文学史

自然科学部門

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
小野 伸一郎 (学士〔教育学〕)	教授	・学生主事補 ・学級担任(2-4)	保健体育Ⅰ,Ⅳ,Ⅴ	①運動生理学 ②運動方法学	①運動制御に対する呼吸・代謝と不安心理 ②身体活動と健康
奥村 昌司 (博士〔理学〕)	教授	・教務主事補 ・評価委員長 ・学級担任(2-1)	①微分積分ⅠA,ⅠB ②微分積分ⅡA,ⅡB ③微分積分演習 ④確率統計	①非線形方程式 ②微分幾何学 ③数理物理	自己双対方程式のパネルベ解析
上杉 智子 (博士〔理学〕)	教授	・自然科学部門長 ・男女共同参画室長	①物理ⅡA,ⅡB ②物理Ⅲ ③応用物理Ⅰ,Ⅱ ④防災リテラシー	①素粒子論 ②初期宇宙論	①宇宙論的相転移の解明 ②宇宙磁場,物質の起源
岡田 浩嗣 (博士〔理学〕)	教授	・学生副主事 ・学生相談室長 ・将来戦略検討部会長	①微分積分ⅠA,ⅠB ②微分積分ⅡA,ⅡB ③微分積分演習 ④確率統計	①微分方程式 ②力学系 ③特異摂動論	①反応拡散系における内部遷移層と界面のダイナミクス ②特異摂動法の非局所方程式への応用
木村 健二 (修士〔体育学〕)	准教授	・寮務主事補 ・学級担任(2-3)	保健体育Ⅱ,Ⅳ,Ⅴ	①スポーツバイオメカニクス ②トレーニング科学	素早く移動方向を変更させるためのストラテジーに関する研究
宝利 剛 (博士〔理学〕)	准教授	・教学IR室長 ・学級担任(1-1)	①物理ⅠA,ⅠB ②物理Ⅲ ③応用物理Ⅰ,Ⅱ ④近代物理学	相対論	ブラックホール時空の数理
小島 広孝 (博士〔工学〕)	准教授	・入学前ICT教育WG座長	①化学ⅠA,ⅠB ②化学ⅡA,ⅡB	①分子科学 ②計算化学 ③有機合成	有機材料の分子シミュレーション
喜友名 朝也 (博士〔数理学〕)	准教授	・学生主事補	①基礎数学A,B ②基礎数学演習A,B ③応用数学ⅠA,ⅠB	整数論	①保型形式環 ②保型微分方程式
熊谷 大雅 (博士〔理学〕)	講師	・学級担任(1-3)	①基礎数学A,B ②基礎数学演習A,B ③応用解析Ⅰ・Ⅱ	非線形偏微分方程式論	粘性解理論を用いた完全非線形偏微分方程式の数学解析
馬越 春樹 (博士〔理学〕)	助教		①微分積分ⅠA,ⅠB ②応用数学ⅡA,ⅡB	解析学	関数解析学を用いた発展方程式の数学解析

機械工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
篠原 正浩 (博士〔工学〕)	教授	・機械工学科長 ・実習工場長	①機械設計法Ⅰ ②機械設計法Ⅱ ③材料力学Ⅱ ④機械工学特論 ⑤機械工学実験Ⅰ ⑥機械工学演習Ⅰ ⑦機械工学実験Ⅱ ⑧機械工学演習Ⅱ ⑨卒業研究 ⑩材料力学特論Ⅰ ⑪材料力学特論Ⅱ ⑫特別実験 ⑬エンジニアリング・デザイン演習	①材料力学 ②複合材料工学	①自己融着による炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の接合について ②局所加熱を利用した炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の曲げ加工
谷川 博哉 (博士〔工学〕)	教授	・教育研究支援センター長	①入門機械実習 ②材料力学ⅠA ③材料力学ⅠB ④機械工学実験Ⅰ ⑤機械工学演習Ⅰ ⑥創造設計製作 ⑦設計製図Ⅴ ⑧卒業研究 ⑨流体力学 ⑩特別研究	流体力学	①振動重力場における流体の挙動 ②集風体に関する研究
豊田 香 (博士〔工学〕)	教授	・学級担任(4M) ・寮務主事補	①設計製図Ⅱ ②工作実習Ⅱ ③計測工学演習 ④工業熱力学Ⅰ ⑤工業熱力学Ⅱ ⑥熱力学Ⅰ(4S) ⑦熱力学Ⅱ(4S) ⑧伝熱工学 ⑨卒業研究 ⑩特別研究基礎	エネルギー工学	膜沸騰熱伝達の研究
山田 耕一郎 (博士〔工学〕)	教授	・学生主事	①入門機械実習 ②機械工作法Ⅰ ③機械工作法Ⅱ ④工作実習Ⅱ ⑤創造設計製作 ⑥機械力学Ⅰ ⑦機械力学Ⅱ ⑧材料加工学 ⑨設計製図Ⅳ	①計算力学 ②材料力学	①ねじり試験 ②異種金属カシメ結合の微小硬さ

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
小林 洋平 (博士〔工学〕)	准教授		①設計製図Ⅰ ②計測工学 ③機械工学実験Ⅰ ④機械工学演習Ⅰ ⑤エネルギーシステム工学 ⑥機械工学実験Ⅱ ⑦機械工学演習Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨エネルギー工学 ⑩エネルギー環境学 ⑪プラント工学 ⑫特別実験 ⑬特別研究基礎 ⑭特別研究	①熱流体工学 ②エネルギー工学	①液体ナトリウムの濡れ性に関する研究 ②廃炉ロボットの研究
村上 信太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任 (5M)	①情報処理Ⅰ ②工業力学Ⅰ ③工学基礎演習 ④設計製図Ⅱ ⑤工業力学Ⅱ ⑥設計製図Ⅲ ⑦機械工学実験Ⅰ ⑧機械工学演習Ⅰ ⑨流体工学 ⑩卒業研究 ⑪特別実験	①熱流体工学 ②数値流体力学	マイクロスケール圧縮性流れの流動・伝熱
室巻 孝郎 (博士〔工学〕)	准教授	・教務主事補 ・学級担任 (3M)	①情報処理Ⅱ ②ものづくり演習 ③制御工学 ④数値計算演習 ⑤設計製図Ⅳ ⑥機械工学実験Ⅱ ⑦機械工学演習Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨システム設計学 ⑩特別演習 ⑪特別研究	①数値最適化 ②システム工学	①FA機器の開発 ②ロボットの動作に関する研究
中村 丞 (修士〔工学〕)	助教		①機械工学実験Ⅱ ②機械工学演習Ⅱ	①塑性加工学 ②計算材料学	金属材料の熱間加工に関する研究

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
西山 等 (博士〔工学〕)	嘱託教授		①入門機械実習 ②工作実習Ⅰ ③防災リテラシー ④水力学Ⅰ ⑤水力学Ⅱ ⑥機械工学特論 ⑦機械工学実験Ⅰ ⑧機械工学演習Ⅰ ⑨機構学 ⑩機械工学実験Ⅱ ⑪機械工学演習Ⅱ	①流体工学 ②生体力学	①エアリフトポンプに関する研究 ②生物模倣工学に関する研究

電気情報工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
片山 英昭 (博士〔工学〕)	教授	・総務担当副校長	①電気情報概論 ②情報理論 ③アナログ信号処理 ④過渡現象論 ⑤電気情報工学実験 ⅣA・ⅣB ⑥C言語実習 ⑦情報工学 ⑧特別研究	①情報システム工学 ②視覚情報処理	①視覚障害者用歩行支援システムに関する研究 ②希少画像を用いた不良品検出に関する研究
竹澤 智樹 (博士〔理学〕)	教授	・電気情報工学科長 ・学級担任(4E)	①交流回路Ⅱ ②電気情報工学実験 ⅡA・ⅡB ③アナログ回路 ④電気磁気学Ⅰ・Ⅱ ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦電磁気計測 ⑧卒業研究	物性物理学	第一原理電子状態計算による物性評価 ・物質設計 ・超伝導 (Pd, Fe) ・高圧物性 (水素)
内海 淳志 (博士〔工学〕)	教授	・専攻科長 ・教務副主事	①電気基礎 ②電気回路 ③専門AL(1E) ④電子工学Ⅰ・Ⅱ ⑤工学基礎研究 ⑥半導体工学 ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨電磁気応用工学 ⑩電子デバイス工学 ⑪特別研究基礎 ⑫特別研究	①光電子工学 ②半導体工学	①近接場光応用技術の開発 ②電子デバイス教材の開発
丹下 裕 (博士〔工学〕)	教授	・入試広報部会長	①回路実習 ②電気磁気学Ⅲ ③通信工学 ④工学基礎研究 ⑤伝送工学 ⑥電気情報工学実験 ⅣA・ⅣB ⑦卒業研究 ⑧応用通信工学 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	医用生体工学	①癌温熱治療装置の開発 ②障がい者支援に関する研究

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
船木 英岳 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(5E)	①メディアリテラシー ②ネットワーク論 ③電気情報工学実験ⅢA・ⅢB ④工学基礎研究 ⑤オペレーティングシステム ⑥データ構造とアルゴリズム ⑦卒業研究 ⑧ネットワークシステム論 ⑨エンジニアリングデザイン演習	情報システム工学	①複数ARマーカを用いたソフトウェアの開発 ②3Dプリンタを用いた福祉支援器具の製作 ③IPSを用いたソフトウェアの開発
井上 泰仁 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(3E)	①電気情報概論 ②情報数学 ③デジタル回路 ④論理回路 ⑤電気情報工学実験ⅢA・ⅢB ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究	情報科学	①膜タンパク質の機能予測 ②プログラミング教育
七森 公碩 (博士〔工学〕)	准教授	・専攻科電気電子システム工学コース長	①電気情報工学実験ⅠA・ⅠB ②交流回路Ⅰ ③電気機器 ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥エネルギー工学Ⅰ・Ⅱ ⑦ロボティクスⅢ ⑧工学基礎研究 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	パワーエレクトロニクス	①GaN, SiCを用いた高性能電力変換器の開発 ②半導体並列駆動技術に関する研究
森 健太郎 (博士〔シミュレーション学〕)	講師		①電気情報工学実験ⅠA・ⅠB ②C言語 ③プログラミング実習 ④映像メディア工学 ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	医用画像・信号工学	①医用診断支援システムの開発 ②AIシステムの開発

電子制御工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
野間 正泰 (博士 [工学])	教授	・ 寮務副主事	①力学Ⅰ,Ⅱ ②材料力学Ⅰ,Ⅱ ③水力学Ⅰ,Ⅱ ④機械工学実験 ⑤卒業研究 ⑥流体工学特論	①トライボロジー ②可視化情報計測	①テーラー渦とキャビティ流れの相互作用 ②移動物体まわりの流れの可視化 ③簡易風洞装置の設計製作と理科教育への適用 ④トライボロジー実験教材の開発
仲川 力 (博士 [工学])	教授		①メカトロニクス演習Ⅰ ②製図基礎 ③プログラミングⅠ ④組込みシステムⅠ,Ⅱ ⑤CAD演習Ⅰ,Ⅱ ⑥創造設計プロジェクト ⑦計測工学 ⑧卒業研究	機械工学	①クローラ走行体の走行性能に関する研究 ②VRを用いたシミュレータの開発と実験
伊藤 稔 (博士 [工学])	教授	・ 電子制御工学科長 ・ 学術情報センター長	①メカトロニクス演習Ⅱ ②プログラミングⅡ,Ⅲ ③電子制御実験 ④情報学 ⑤ロボットビジョン ⑥回路設計演習 ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨知識情報工学	ソフトコンピューティング	①進化計算の工学的応用 ②SLAMに関する研究
清原 修二 (博士 [工学])	准教授	・ 高専機構研究推進ボード本部員 ・ 学級担任(3S)	①電子制御実習 ②電子工学Ⅰ,Ⅱ ③電子回路Ⅲ ④卒業研究 ⑤先端材料工学	①ナノテクノロジー ②超微細加工学 ③電子・イオンビーム工学	①液滴室温ナノインプリント法による機能性DLCマイクロ・ナノデバイスの開発 ②ナノテクノロジーによる半導体エンジニアの人材育成

<p>西 佑介 (博士 [工学])</p>	<p>准教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域共同テクノセンター副センター長 ・ 学級担任(4S) ・ 学生主事補 	<ul style="list-style-type: none"> ① 電子制御実験 ② 電気磁気学 I, II ③ 卒業研究 ④ 電子回路特論 ⑤ エンジニアリングデザイン演習 ⑥ 特別研究 ⑦ 電気回路(5M) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 酸化物エレクトロニクス ② 電子回路 ③ 半導体工学 	<ul style="list-style-type: none"> ① 酸化物を用いた抵抗変化素子の評価 ② アナログ抵抗変化特性の理論解析 ③ 学生実験用回路設計および実験教材作製
<p>石川 一平 (博士 [工学])</p>	<p>准教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻科MSコース長 ・ 教務主事補 	<ul style="list-style-type: none"> ① 電気基礎 I, II ② メカトロニクス演習 II ③ 防災リテラシー ④ 電子回路 I, II ⑤ 電子制御実験 ⑥ 電子回路IV ⑦ 卒業研究 ⑧ 特別研究基礎 ⑨ 特別研究 	<ul style="list-style-type: none"> ① 電子物理 ② 応用物理 ③ 材料工学 	<ul style="list-style-type: none"> ① プラスチックを用いた放射線計測に関する研究 ② 微細発光デバイスの作製
<p>高木 太郎 (博士 [工学])</p>	<p>准教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路指導委員会副委員長(就職) ・ 寮務主事補 	<ul style="list-style-type: none"> ① 制御工学 I, II, III ② システム制御 I, II ③ 制御系設計演習 ④ 制御工学実験 ⑤ 卒業研究 ⑥ 制御工学特論 ⑦ 特別実験 ⑧ 特別研究基礎 ⑨ 特別研究 ⑩ 制御工学 I, II (4E) 	<p>制御工学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 概強正実性に基づく適応制御系のモデルフリー構成法 ② パワーアシストスーツに関する研究
<p>若林 勇太 (博士 [工学])</p>	<p>准教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担任(5S) ・ 学生主事補 	<ul style="list-style-type: none"> ① 振動工学 I, II ② ロボティクス I, II ③ 機械工学実験 ④ 創造設計プロジェクト ⑤ 卒業研究 ⑥ 特別研究 	<p>ロボット工学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 人とロボットの協働作業に関する研究 ② 機械メカニズムによる省アクチュエータ・省センサ化

建設システム工学科

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
玉田 和也 (博士〔工学〕)	教授	・ 地域共同テクノ センター長 ・ 学級担任(5C)	①構造力学Ⅰ ②構造力学Ⅱ ③構造力学Ⅲ ④応用構造力学 ⑤専門AL ⑥卒業研究 ⑦構造力学特論 ⑧メンテナンス工 学 ⑨特別研究 ⑩特別実験	①メンテナン ス工学 ②橋梁工学 ③構造工学	①地方自治体が管理 する橋梁の維持管 理 ②橋梁の健全度評価 ③アセットマネジメ ント ④構造力学教育
山崎 慎一 (博士〔工学〕)	教授		①環境衛生学Ⅰ,Ⅱ ②環境工学Ⅰ ③環境工学ⅡA, ⅡB ④建設システム工 学実験ⅡB ⑤応用測量学Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦環境工学特論	①衛生工学 ②環境工学	①次世代型下水処理 システムの開発 ②オゾンによる難分 解性物質の除去 ③閉鎖性水域の水質 改善に関する研究
尾上 亮介 (博士〔芸術文化学〕)	教授	・ 建設システム工 学科長	①建設製図Ⅰ ②建設製図Ⅱ ③都市計画 ④建設製図制作 ⑤建築計画Ⅱ ⑥建設設計製図Ⅰ ⑦建築デザイン ⑧卒業研究 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究 ⑪まちづくり学 ⑫設計製図	①建築設計 ②都市計画 ③まちづくり	①空き屋の活用に関 する研究 ②民家改修における 意匠・形態に関す る研究 ③歴史的景観を形成 する建築意匠に関 する研究

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
加登 文学 (博士〔工学〕)	教授	・教務主事	①防災リテラシー ②建設システム工学概論Ⅱ ③地盤工学ⅠA ④地盤工学ⅠB ⑤建設システム工学実験ⅠA ⑥建設システム工学実験ⅠB ⑦地盤工学Ⅱ ⑧土木計画 ⑨応用測量学Ⅰ ⑩地盤防災工学 ⑪卒業研究 ⑫地盤工学特論 ⑬特別研究基礎	①地盤工学 ②土質力学 ③防災工学	①地盤材料の力学特性に関する研究 ②強震動予測に関する研究 ③地域防災に関する研究
徳永 泰伸 (博士〔工学〕)	教授	・専攻科建設工学コース長	①建設システム工学概論Ⅰ ②建設製図制作 ③建築環境Ⅰ,Ⅱ ④建築設備Ⅰ,Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥特別実験 ⑦建築環境工学特論 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	建築環境学	①室内音環境に関する研究 ②視覚と聴感の相互作用に関する研究 ③室内視環境に関する研究
渡部 昌弘 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(4C)	①建築一般構造 ②建設製図制作 ③建築構造Ⅰ,Ⅱ ④数値解析Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥エンジニアリングデザイン演習 ⑦特別実験 ⑧建築耐震工学 ⑨特別研究基礎 ⑩特別研究	①木質構造学 ②建築構法 ③建築構造	①歴史的木質建築物の構造特性・耐震性能の解明および保存・改修に関する研究 ②木質系構造を有する歴史的文化的資産の復元研究 ③近現代の組積造建築物の構工法・構造特性の解明 ④近代の歴史的遺構の実態調査および保存・再生の提案

氏名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
毛利 聡 (博士〔工学〕)	准教授	・寮務主事補	①測量実習 ②建設材料学 ③建設システム工学実験ⅠA,ⅠB ④コンクリート構造学Ⅰ,Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥建設材料特論 ⑦特別演習 ⑧特別研究	①建築材料施工 ②コンクリート工学	①建築部材の補修・改修・維持管理技術の高度化 ②歴史的建造物を含む既存構造物の耐久性評価 ③公共建築物の維持管理 ④施工技術教育
中尾 尚史 (博士〔工学〕)	講師	・学級担任(3C)	①鋼構造学 ②耐震工学 ③建設設計製図Ⅲ(都市環境コース) ④建設システム工学実験ⅠA,ⅠB ⑤建設製図制作 ⑥卒業研究 ⑦土木数値解析 ⑧特別実験	①耐震工学 ②構造工学	①道路橋に作用する津波の影響評価 ②道路橋の津波対策 ③超過作用に対する道路橋のレジリエンス技術の研究 ④損傷制御型支承の開発 ⑤ゴム支承の非破壊検査技術の開発
今村 友里子 (博士〔工学〕)	講師		①建設システム工学概論 ②建設製図Ⅱ ③建築計画Ⅰ ④建築史 ⑤建築論 ⑥建設設計製図Ⅰ ⑦建設設計製図Ⅱ ⑧空間デザイン論 ⑨卒業研究 ⑩特別研究	①建築論 ②建築史	①近現代建築およびランドスケープに関する制作論 ②近現代建築保存活用
平子 遼 (修士)	助教		①水理学ⅠA,ⅠB ②水理学Ⅱ ③建設システム工学実験ⅡA ④河川工学 ⑤海岸工学 ⑥水理学特論 ⑦卒業研究	①防災計画 ②都市計画	災害リスク推定

教 職 員 数

令和6年3月31日現在

校 長								1
教 員	区 分	教授	准教授	講師	助教	特任等	計	
	人 文 学 部 門	2	3	2	1	1	9	
	自 然 学 部 門	4	4	1	1	0	10	
	機 械 工 学 科	4	3	0	1	1	9	
	電 気 情 報 工 学 科	4	3	1	0	0	8	
	電 子 制 御 工 学 科	3	5	0	0	0	8	
	建 設 シ ス テ ム 工 学 科	5	2	2	1	0	10	
	計	22	20	6	4	2	54	
事 務 職 員	事 務 部 長							1
	総 務 課							15
	学 生 課 (看 護 師 含 む)							13
	再 雇 用 事 務 職 員							0
	計							29
技 術 職 員	教 育 研 究 支 援 セ ン タ ー							11
	施 設 系							2
	再 雇 用 技 術 職 員							1
	計							14
非 常 勤 教 職 員	事 務 補 佐 員 等							36
	特 命 教 授							2
	特 命 准 教 授							1
	特 命 助 教							2
	非 常 勤 講 師							21
	学 校 医 等							5
	計							67
合 計							165	

注1) 「特任等」…「特任教授」「嘱託教授」

注2) 「事務補佐員等」…「事務補佐員」「技術補佐員」「技能補佐員」「課外活動指導員」「学生寮指導員」「非常勤看護師」

注3) 「学校医等」…「学校医」「学校歯科医」「産業医」「カウンセラー」

学校行事日程

月	日	曜日	行 事 名
4	1	土	開寮
	2	日	入寮式
	3	月	入学式・後援会総会
	4	火	始業式, オリエンテーション, 身体計測・心電図・胸部レントゲン
	5	水	前期授業開始
	10	月	交通安全講習会 (本科2・3年生)
	11	火	学位申請説明会 (専攻科1年生)
	12	水	交通安全講習会 (本科4・5年生・専攻科)
	18	火	新入生合宿研修 (～19日)
	24	月	性被害・性加害防止講演会 (本科1年生)
	26	水	開校記念日
29	土	スポーツフェスタ 昭和の日	
5	13	土	福井高専交歓試合
	22	月	メンタルヘルス講演会 (本科2年生)
	29	月	特別授業
	30	火	本科前期中間試験 (～6月5日)
6	1	木	学位申請説明会 (専攻科2年生)
	3	土	後援会第1回役員会
	11	日	舞鶴高専フェア
	12	月	ネットトラブル防止講演会 (本科1年生)
	18	日	専攻科学力検査選抜試験 (前期A・B)
24	土	近畿地区高専体育大会(卓球) (～25日)	
7	1	土	近畿地区高専体育大会(剣道) (～2日)
	3	月	消費者講演会 (本科3年生)
	10	月	薬物乱用防止講演会
	18	火	月曜授業
	26	水	特別授業
	27	木	本科・専攻科前期期末試験 (～8月2日)
8	3	木	閉寮 (～4日)
	4	金	夏季休業 (～9月15日)
	5	土	オープンキャンパス (～6日)
	10	木	一斉休業

月	日	曜日	行 事 名
8	23	水	編入学試験
9	3	日	オープンキャンパス
	15	金	PROG報告会
	16	土	開寮 (～17日)
	18	月	特別授業, 前期到達度確認期間 (～20日), 前期授業アンケート (～29日) 敬老の日
	21	木	後期授業開始
10	3	火	4年生研修旅行 (～6日)
	8	日	ロボコン近畿地区大会 高専女子カフェトーク
	14	土	プロコン全国大会 (～15日)
	15	日	専攻科学力検査選抜 (後期)
	16	月	防災訓練
	17	火	午前: 英語デー 午後: 特別授業
	19	木	特別研究基礎中間発表会 (専攻科1年生)
	25	水	球技大会
	27	金	後援会支部総会 (京都・舞鶴)
	30	月	後援会支部総会 (丹後但馬・中丹・南丹)
11	1	水	後援会支部総会 (兵庫・福井・滋賀)
	2	木	高専祭準備
	3	金	高専祭 (～4日) 文化の日
	5	日	高専祭後片付け
	10	金	デザコン全国大会準備
	11	土	デザコン全国大会 (～12日)
	16	木	特別授業
	20	月	本科後期中間試験 (～27日)
	25	土	後援会第2回役員会
	26	日	舞鶴高専杯プログラミングコンテスト, ロボコン全国大会
12	2	土	合同学校説明会
	15	金	午前: 金曜午前授業 午後: キャリアセミナー準備
	16	土	キャリアセミナー (～17日)
	19	火	特別研究発表会 (専攻科2年生)
	22	金	午前: 金曜午後授業 午後: 特別選抜入試準備, CBT関係

月	日	曜日	行 事 名
12	23	土	特別選抜〔地域創生型〕, 閉寮
	25	月	冬季休業（～1月5日）
1	6	土	特別選抜〔一般推薦型〕
	8	月	開寮 成人の日
	9	火	月曜授業
	10	水	金曜授業
	23	火	特別研究基礎最終発表会（専攻科1年生）
2	1	木	特別授業
	2	金	（本科1～5年生・専攻科1年生）後期 期末試験（～8日）
	11	日	学力検査選抜・帰国生徒特別選抜 建国記念日
	13	火	臨時休業，後期授業アンケート（～ 2月26日）
	14	火	特別授業，試験返却等到達度確認期 間（～16日）
	16	金	閉寮（～18日）
	24	土	後援会第3回役員会
3	3	日	入学説明会
	4	月	再試験期間（～14日）
	9	土	進路に関する三者懇談会（～10日）
	15	金	卒業証書・修了証書授与式